

## シドニー法会での説法

李 洪 志

一九九六年

自己紹介をする必要はないと思います。いずれにしても、皆さんは私を知っています。私が李洪志です。ずっと皆さんに会いたかったのですが、いろいろな理由で、このような機会がありませんでした。今回、私はわざわざ皆さんに会いに来たのです。なぜかという、オーストラリアではこれまで、この大法を知っている人は今日ほど多くなっただけでなく、学ぶ人の多くは法を学ぶことを重視しておらず、認識も割合に浅かったからです。私がどういうものを伝えているか皆さんが分かった今、皆さんに会いに来ようと私は思っていました。皆さんの知りたいことは本に多く書いてあります。私には一つの習慣があります。私は修煉について分からないことを聞かれることを好みますが、この法についてまだ何なのか分かっておらず、この法は何であるかと私に聞きに来ることに至っては、私は……、どう言ったらいいのでしょうか。認識がまだ浅ければ、説いてもすぐに分からせることができません。もし本を読み、法を学び、ある程度の理解があって、次元の向上に意味のあることを聞きに来れば、法の勉強にしても、あるいは修煉にしても、あなたに対して有益なのです。私は今、機が熟したと思ったので、来たのです。

在席の人にはまだ学び始めていない人もいれば、動作だけを練習し、法の勉強を重要視していない人もおり、比較的良く学んでいる人もいます。私はなぜ、皆さんに法を学ばなければならないと要求するのでしょうか？ ここには次のような関係があるからです。ご存知のとおり、中国では、気功が常人社会に広く普及されてからすでに二十数年間の歴史があって、「文化大革命」の中期、後期に高潮に達しました。しかし、気功が一体どのようなものであるかを説いた人はいませんでした。気功をすることによって現れた幾つかの機能、現代科学では解釈できない幾つかの現象について、一体どういうことなのかを説いた人もいませんでした。では、なぜ気功が出現したのでしょうか？ これを知る人はもっと少ないのです。歴史上、気功はなかったのですが、なぜ今日気功が現れてきたのでしょうか？ しかも修煉として社会に広がっています。これはなぜでしょうか？ 分かっている人はあまりいません。もちろん気功が中国で普及された当時、良い気功師がたくさんいましたが、彼らはただ大衆の健康のために少し役に立ちたいと思っているだけだったのです。このような単純な考え方と認識だけだったのです。

気功はすでに数十年というかなり長い時期にわたって普及されてきましたが、気功の本当の意義が分かる人はいませんでした。そのため、私は『転法輪』の中に気功界の幾つかの現象、気功が常人社会に広がったその背景、気功の最終目的についてすべて書きました。ですから、この本は人を系統的に修煉させることのできるものなのです。多くの人は繰り返し本を読むことを通じて、このようなことに気づきました。この本は何回読んでも、いつも一種の新鮮さを覚えます。何回読んでも、同じ言葉においても違う認識を覚えます。何回読んでも、中には読み取っていなかった内涵がまだまだたくさんあります。これはなぜでしょうか？ つまり私は修煉できるもの、どのように修煉するか、この宇宙の特性などの天機とみなされる多くのものを、全て系統的にこの本にまとめました。修煉者を圓滿成就させることができ、歴史上、このような事をした人はいません。この本を読んだ多くの人は、中に多くの天機が含まれ、多くのものは秘中の秘であり、これまで人類に知らされたことはなく、また知ることも不可能だったことを、私は全てこの本の中で明らかにしたのです。もちろん、このようにしたのは私の目的があるからです。もし誰かが勝手に天機を漏らし、無責任にこれらのことを行ない、この高い次元の理を一般の理論として普通の常人に聴かせるようなことをしたら、それは天機を漏らすことになり、悪い事をしたのと同じであるため、必ず罰が当たります。

私がこの事をするのは目的があるからです。低いレベルから言えば、多くの人は長年の気功の練習を通して、気功には高い次元の内涵があり、人を高い境地まで修煉させることができ、さらに人を圓滿成就させることさえもできると知っています。しかし、このような正真正銘の修煉方法に巡り合えず、一般の気功は病氣治療の類のものであるため、修煉できないのです。したがって、多くの人は寺院の中で居士となり、和尚を師とします。ここまで話したので、一言つけ加えますが、釈迦牟尼佛は彼の法は末法の時期に人を済度することができないと言いました。これは釈迦牟尼佛が言ったことで、中に多くの原因があったからです。ですから、多くの人は寺院の中で、あるいは気功でいくら修めても、たいしたものを得られず、昇華することができず、真に向上できなかつたと感じています。皆さんにこのような向上心があるのに、正しい道を見つけられず、苦しんでいるのを私は見てきました。したがって、私は法を得たい人を本当に高い次元へ導こうと思います。これが一つの大きな原因です。

しかし、正法が伝え出されると、人心、道德の向上を求め、人が善に向かうことを要求します。修煉する人に対する要求は普通の常人レベルの道德水準を超えているため、人類社会に対して有益となるのです。もちろん多くの人はこの本を読んだ後、真に修煉するとは限りませんが、それでも人間としての道理が分かってくるはずで、これから一人の良い人間になるかもしれませぬ。修煉はできなくても一人の良い人間

になるでしょう。そのため、彼は社会に対して有益なのです。正法は伝え出されると必ずこうなります。実は歴代に現れた正教、例えばキリスト教、カトリック教、佛教、道教、ユダヤ教も含め、皆人心を善に導くと同時に、真に高い次元まで修煉したい人に法を得させ、圓滿成就させることができたのです。修煉してもすぐには高い次元に到達できない人を、常人社会の中で一人の良い人にするのができ、未来に修煉する縁を結ばせることができます。このようになります。

我々は宗教ではありませんが、私は気功の高い次元のものを伝えているので、一般の気功ではありません。はっきり言いますと、気功も常人のものではありません。気功とは何でしょうか？ 気功は即ち修煉です。しかし太極拳も含め、それは最も低いレベルの修煉です。太極拳はいいものだと皆さんは知っています。五十年代の中国ですでに広範にわたって広がっていました。これは、明の時代の張三豊が伝え出したものです。しかし、伝わってきたのは動作だけで、人の心に関する法理を伝えていません。つまり、彼は修煉を指導し、各次元でいかに向上するかという法を人に残していません。ですから、太極拳は病氣治療というレベルにとどまり、高い次元への修煉ができないのです。太極拳はとても良いものですが、人の心に関する法理は伝えていません。当時、この法理はあったのですが、後世の人に残されていません。我々が今日伝えるこの法は系統的にこの事をするのです。

もちろん、ここに多くの新しい学習者がいます。私の言ったことは理解を超えるものだと思うかもしれませんが。皆さんも知っているように、各種の宗教は皆、人に善を目指すよう教え、人が天国に行くなどと言っています。もちろん佛教の極楽世界も天国です。歴史上のどの大覚者も、どの聖人も、いかにして人を一人の良い人にするのかを話し、高い境地の基準に到達してから初めて天国に行くことができると言っています。しかし、その中の道理に触れた人はいません。なぜならば、これらの大覚者は、イエスにしても、釈迦牟尼佛にしても、老子にしても皆、約二千年前に現れたからです。その時期の人と今日の人とは違うからです。その当時の人の考えは割合単一で、純朴で、善良で、そんなに複雑ではなかったのです。その当時の人の思惟状態は今と違うので、彼らがその時に説いたその法は当時に有用であり、伝えたことは当時において人を圓滿成就させるには問題がありません。時間が経つにつれ、現在、人の考えが益々複雑になり、思惟方法も変わりました。昔これらの大覚者が伝えたものは現在の人に理解できないのです。ですから、今これらの経書を読んでも、皆その中の真の意味が分かりません。今日私が気功の形で法を伝えています、皆私が佛法を伝えていると分かっています。「あなたの伝えている佛法は釈迦牟尼佛の話した言葉に似ていないのではないのでしょうか？」と思う人もいます。もし、私が釈迦牟尼佛の言った言葉で説いたとすれば、今日の人には誰も分からないのです。釈迦牟尼佛の言葉は当時

の人類の言葉なので、当時の人には皆分かります。今日佛法を説くには、現在の言葉で説いて初めて皆さんは理解することができるのです。また「あなたが説いたのは佛教の経文とも違うのではないのでしょうか」と思う人がいるかもしれません。釈迦牟尼佛は原始六佛の法を説いていたのでしょうか？ 弥勒がもしこの世に降りてきたら、釈迦牟尼佛の説いた法を繰り返すのでしょうか？ 人を済度する全ての覚者は皆自分が悟った法を説き、人に伝えるのです。

この本に、私は数多くの修煉に関することを書きました。人の修煉は常人から始めるのですが、圓滿成就する時まであなたの修煉を指導する法があります。私は確にかつて誰もしたことのないことをしました。更なる大きな宇宙の根本大法を伝えました。古今東西の本を調べ尽くしても見当たらないものです。私の伝え出した道理は宇宙の特性であって、佛法の根本であり、私の言葉でその真実を表現したのです。多くの方は本を読んでから一つの考えが生じ、「李先生はどれほどの学問を持っているのでしょうか？ 先生は古今東西の天文、地理、歴史、化学、物理、天体物理、高エネルギー物理、哲学、かなり多くの範疇のものをすべて概括したようです」と話す人もおり、人々は先生が博学であると思いますが、実のところ常人の学問となると、私はまだとても及ばないと思いますが、しかしこれらの理論は世界中のあらゆる本を調べ尽くしても、世界中の全ての学問を学んでも、見つけることのできないものです。世界中のあらゆる学問を学んだとしても、あなたはまだ一人の常人にすぎません。あなたは人間というレベルの人ですから、常人の知識を幾ら多く身につけても、やはり常人なのです。しかし私が説いた道理、知識は常人というレベルのものではなく、常人というレベルを超えるものです。ですから、その中の道理は常人の知識からきたものではないのです。法は宇宙ひいては常人社会の一切の知識を含んでいるのです。

私は分かりやすい常人の言葉と気功という最も低い修煉形式で、最低から最高までの宇宙の一切の法理を表現しました。この本を一回読み終えたら、いかにして人が良い人になるかの道理を教えた本だと気づきます。この本をもう一回読むと、常人の道理を述べているのではなく、常人の知識を超えた本であることに気づきます。三回読むことができたなら、それが一冊の天書だと分かります。さらに読んでいけば手放せなくなっていくので大切にします。現在、中国ですでに百回以上読んでも、まだ読んでいる人がいます。しかも、もうなくてはならないものとなり、中の内涵があまりにも大きいので、読めば読むほど多くなり、読めば読むほど多くなるのです。なぜでしょうか？ 私はかなり多くの天機を漏らしましたが、修煉しない人には表面から読み取れないのです。修煉する人だけが絶えず本を読んでいくうちに、中の内涵を見いだせるのです。人は修煉する過程で絶えず昇華しているからです。なぜこの本を初めて読んだ時にいかに良い人になるかの道理を説いていると思うのでしょうか？ なぜ二回目に読んだ

ら、そう思わなくなり、昇華できたのでしょうか？ 人が修煉しようとするなら、まず常人のレベルから修煉し始めなければならないからです。次第に心性を高め、さらに高い基準に達します。第一層のレベルの基準に到達した時、そのレベルの法によって修煉を指導します。第二層のレベルに到達したら、第二層のレベルの法によって、その境地において修煉を指導するのです。絶えず昇華していても、この法はその境地においてあなたの修煉を指導できなければなりません。つまりどんな境地まで修煉しても、そのレベルにおいてあなたの修煉を指導する法でなければならず、こうして初めて最後に圓滿成就できるのです。この本にはこれらのものが含まれており、真に修煉するなら、これらのものを読み取ることができ、高いレベルへの修煉を指導できるのです。この本にある内涵は相当大きいため、一万回読んでもあなたの修煉を指導でき、圓滿成就まで指導できます。

圓滿成就と言えば、皆さんも知っているように、イエスは汝が私を信じれば天国に行けると説きました。佛教も佛を修めれば極楽世界に行けると主張します。もちろん彼らは皆とても簡単に言うており、人が実際の修煉を通じて初めて行けることを強調していません。しかし本当は宗教も修煉です。ただ釈迦牟尼佛でも、イエスでも、皆一つのこと気づいたのです。我々修煉界では「修は己にありて、功は師にあり」という言い方があります。これも常人の知らないことです。常人は動作を練習すれば、功を高く伸ばすことができると思っていますが、我々から見ると、これは冗談で、完全に不可能なことです。もちろん、あなたが修煉したいなら、師は真にあなたに責任を負わなければならない、身体に多くの機制を与え、また種のように多くのものを植え付けて、初めて修煉ができるようになるのです。しかも修煉の過程において師はあなたを見守り、業力を滅し、功を演化してあげて、初めて修煉し高いレベルに到達することができます。宗教では修煉を講じませんが、それはなぜでしょうか？ イエスは汝らが私を信じて修煉すれば、高い次元に到達できると知っています。現在の宗教では修煉できなくなったのは、彼らが説いた話の真の意味を理解できないからです。多くの方は、イエスを信じれば、自分は死後天国に行けると思っています。皆さん考えてみてください。どのように天国に行くのでしょうか？ 我々は常人の心、七情六欲、各種の執着心、闘争心、顕示心を持っており、常人には良くない心があまりにも多いのです。このままあなたを佛のところに行かせたら、佛と争い、喧嘩するかもしれません。あなたの常人の心が取り除かれていないからです。大菩薩がこんなにきれいなのを見て、邪念が生じるかもしれませんが、これは許されることでしょうか？ 当然許されません。そこで、常人社会でああなたのこれらの執着心、汚い、良くない心を取り除いて初めて、あなたはその境地に昇華することができます。修煉することによって天国に行けますし、信じることによっても行けます。ただし、懺悔してから再び過

ちを起こさないように、ますます良くなり、天人の基準に達して初めて天国に行けます。実はこれが修煉なのです。

イエスを信じれば天国に行けると言う人がいますが、私に言わせると行けないのです。なぜ行けないのでしょうか？ 現在の人もイエスの言った話の真の意味を理解していないからです。イエスは如来の次元に到達したから、佛の境地の覚者でもあります。彼の言った話の意味が常人には理解できないのです。絶えず彼の方法に従って修めて初めて、次第に彼の話の意味を会得することができます。例えばイエスが「私を信じれば、汝は天国に行ける」と言いましたが、実際の意味はあなたが私の教えた良い人になる道理にしたがって行動して初めて、真に私を信じることになり、それで初めて天国に行けると言うことです。さもないとすれば彼はどうしてたくさんのお話を言ったのでしょうか？！ 懺悔の時にはしっかりしており、心理状態はとても良いと感じていましたが、教会を出ると、自分勝手に、常人の中で常人よりも良くない行ないをするのなら、どうして天国に行けるのでしょうか？ あなたの心は全然向上していません。イエスは汝が私を信じれば、汝は天国に行けると言いました。彼を信じるというのは、彼の言うとおりに行動することが真に信じることなのです。このようなことでしょうか？ 他の宗教においても同じです。

釈迦牟尼佛が言った話を後世の人がそれをまとめ、経書にしたのです。その後、人々は経書を読んだ量、佛教知識を掌握した量を修煉としてしまいました。実は釈迦牟尼佛がこの世にいた時、全く経書はなかったのです。まして、経書は五百年も経って系統的にまとめられたもので、釈迦牟尼佛が当時言った話から完全に離脱していました。しかしその当時、人にはこれぐらいのことしか分からせることができません。あまり多すぎてもだめです。これもまた必然のことだったのです。釈迦牟尼佛が晩年に「私は一生何の法も説いていない」と言いました。釈迦牟尼佛は確かにこの宇宙の法を説いておらず、真、善、忍という特性の常人社会での現れ、あるいは彼の如来の次元での現れを説いていないからです。本当に説いていないのです！ 如来佛が言ったのは何でしょうか？ 彼の言ったのは彼の前世の中で修煉して悟ったものと前世に輪廻する時の修煉のこと、修煉の物語及び彼の法の具体的表現に対する幾つかの認識です。経書はとぎれとぎれに整理されてできたもので、系統的なものではありません。それでは、後の人はなぜ釈迦牟尼佛の説いたことを佛法としたのでしょうか？ これは人の認識であるほか、釈迦牟尼は佛であるので、彼の説いた話は佛性を持っているからです。佛性を持つ話は人にとって即ち一層の佛理であり、即ち佛法なのです。しかし、彼は確かに系統的に修煉の原理、宇宙の特性、人がなぜ向上できるか等等を伝えていなかったのです。本当に説いていません！ ですから、私が今まで誰もしたことのない事をして、一つの大きな門を開き、さらに大きな事をしたと私は言うのです。つまり

私は修煉の道理、圓滿成就の要素を全て説いたのです。しかも、とても系統的に説いています。これは高い次元の神が「あなたは人間に天に上るはしご——『転法輪』を残した」と言ったその理由です。

私がここで釈迦牟尼佛と比べてうんぬんするものではありません。私はそんな心を持っていませんし、私は常人の情の中にはいませんし、世間の名利に対する執着もありません。私はこのものを伝え出した以上、あなたに責任を負わなければならない、この道理を明白に説かなければなりません。私は皆さんから何も求めず、一円も取らず、皆さんに善に向かうことだけを教えます。私にこのような質問をした人がいます。「先生、あなたは私たちにこんなに多くのものを教え、こんなに多くのものをくださいましたが、あなたは何を求めるのですか？」私は「私は何も求めません。皆さんを済度しに来たのです。私はあなたの善に向かう心を求め、向上できることを期待しています」と答えました。人間になるのが人間の目的ではないことが私には分かっているからです。現在、人は皆常人社会の偽りの現実の中に迷い、人間としてはこうしなければならないと思っています。特に、現在の人類社会は道德観念がひどく墮落し、皆この流れとともに落ちています。社会全体が落ちています。そうすると、誰も自分が墮落していると自覚していません。他人より少しばかり良いから自分が良い人だと思っています。実はあなたはすでにだめになったこの基準で自分を量っているのです、良くない中で他人より少し良いということだけです。もし修煉することができれば、元の人類社会の境地に戻り、少しでも高い境地から今日の人間、人類社会を振り返れば、恐ろしいと感じます。本当にとっても恐ろしいのです！ 現在の人類が本当に極悪非道だと分かります。

天上の大覚者達は、佛にしても、道にしても、神にしても、すでに今日の人間を人間と見なしていないのです。この話は少し絶対的に言っているかもしれませんが、もちろん良い人もまだいます。しかし彼らは全人類、広い範囲でのことについて言っているのです。本当にそうです。昔、人がお寺、教会に懺悔に行ったとき、イエスや天国の人は本当に彼の話を聞いていると感じていました。脳の中にこのような感応の声が彼の問題に答えているようでした。しかし今日の人にはこのような感覚がなく、佛を拝む人も佛の存在が見えないのです。なぜでしょうか？ 人類社会の人はますます悟らず、ますます腐敗墮落したので、神も見捨てたのです。現代人は業力がとても大きく、ますます悟らなくなるので、悪い事をして罰が当たった時、偶然だと思うのです。私の見るところでは、人類の道德基準は凄まじく墮落しましたが、人々は皆、無意識的にこの流れに従って墮落したのです。一部の人には佛性、本性がまだあります。この数年間、私が功を伝えたことによって、多くの人は修煉して向上してきました。しかもかなり高い次元まで修煉してきました。悟りを開いた人もいますし、漸悟に入

った人もおり、すでに果位の中で修煉している人もいます。私はとても嬉しく思います。私が行なったこの事は無駄にならなかったのです。私は人に、社会に責任を負い、無駄に天機をもらしておらず、人をここまで修煉させたからです。

私は先ほど人の生きる目的は人間になる為ではないということを行いました、多くの人はまだ理解できないかもしれません。人間は今のよう生きるべきだと思っています。生まれた時は誰でも同じであり、別の空間の存在が見えず、信じることもできないのです。さらに、現代の人は現代の科学を過度に信じていますが、現代科学は不完全なものです。この宇宙の中で科学の認識はとても浅く、とても低いとしか言えないのです。人間がそれを過度に信じると、一つの最大な危険に直面するようになります。つまり人の道徳は徹底的に打ち壊されるのです。そうなると、上の世界では道徳観念のない人を人として認めなくなります！ 人類の外形をしているのは人間だけではなく、鬼、猿、チンパンジーなども、脳があって、四肢をもっているのです。人間は世の中に生きている以上、人間としての道徳規範を有し、人間としての道徳基準が存在し、人の生存の方式がなければならないのです。これらの規範から離れると神はもう人を人間として見なさないのです。しかし人間は皆、自分がどうやって生きていけばよいか、どのように発展するかなどを考えていますが、人類社会は高級生命に制御されているので、技術をもってしては永遠に佛の境地に達することができないのです。でなければ、宇宙戦争が本当に起きるのです！ ですから闘争心、嫉妬心、七情六欲を持っている人類の技術をさらに高い基準に到達させないのです。

人の大脳の七十パーセントあまりは使われていません。現代医学においてもこのことはすでに認識されています。これはなぜでしょうか？ 人類の知恵は抑制されていますが、なぜ佛は人類以上の知恵、神通を持っているのでしょうか？ なぜ佛には何でも分かるのでしょうか？ 大智大慧なののでしょうか？ つまり私が先ほど言ったこの道理です。私がこの本で科学知識に幅広く言及したから、先生は豊富な知識を持っている、多くの大学に通ったのではないかと思う人がいますが、違います。それはなぜでしょうか？ 私と皆さんとの違いは私の脳が全部開いているのであり、皆さんはそうではないのです。この世においては、哲学にしても、天文学にしても、物理、化学、人類の歴史などを人々はとても複雑だと思っていますが、実はとても簡単なもので、佛法範囲にある最低レベルの人類のものにすぎません。皆同じ理であり、つまりこの宇宙の特性とこの次元に存在する物質の形式によるものであり、これだけなのです。しかし、人類の知恵はそれすら受け容れることができず、人の大脳は閉鎖されているので、受け容れることができないのです。どうすればいいのでしょうか？ もっと多くのことを知りたくても、一人の人の脳に入りきれないから、あなたは物理を学び、あなたは化学を学び、あなたは天文を学び、あなたは高エネルギー物理を学び、あな

たは哲学を学び、あなたは歴史を学び、あなたはこれを学び、あなたはあれを学んでいます。この一つの分野の知識だけでも、人間が一生かけても全部身に付けることができません。ですから、人類の知識はとても情けないほど少ないのです。

先ほど言いましたが、知識をいくら学んでも、大学の教授になって、いくら有名になっても、その人はやはり一人の常人です。なぜならば、あなたの知識は常人という次元を超えていないからです。しかも、我々現在の人類のこの実証科学はまだ不完全なものです。例えば、現在の科学は神の存在や別の空間の存在を実証できません。別の空間の生命と物質の存在形式が見えず、道徳という物質の人体の周囲での現れを知らず、業力という物質の人体の周囲での現れも知りません。人々は皆、現代科学を信じていますが、現代科学ではこれらのことを実証できません。また、道徳や善悪など科学以外のものに言及すると全て迷信と見なされていますが、実質上は現代科学という棍棒をふるって、我々人類の最も本質的なもの、即ち人類の道徳を打ち破ろうとしているのではありませんか？ この通りではありませんか？ 人間は徳の存在を認めず実証もできないから、すべて迷信だと決め付けてしまいます。人類の道徳観念が本当に破壊されてしまえば、人間は心の法の制約、道徳の規範がなくなり、人間は何でも敢えてやります。どんな悪い事でも敢えてやり、人類の道徳の墮落を絶えず助長することになります。これは即ち科学の最も足りない部分が果した作用です。

造詣のある科学者は、現代の科学を一つの決まりきった枠の中に固定し、実証科学以外のものは科学ではないという理性を失った感情的な人のような一方的な考えは持っていません。皆さん考えてみてください。人類が認識できていないものを、我々が科学的な方法で認識できた時、それは科学ではありませんか？ それも科学的になったのではありませんか。人類は絶えず自分を修正し、自分を新たに認識しているから、科学は発展し、最後に真に宇宙を認識するようになります。現在の実証科学はその発展の方式が非常に拙く、緩慢なものです。まるで盲人が象に触れているように、宇宙全体の物質の存在方式、宇宙の特性の存在を認識できません。触れた一部分を全部だと思えます。象の足しか触れていないのに、「ほら、科学はこのようなもので、これは真に生命、物質を認識した科学です」と主張します。象の全体像が見えません。宇宙が無数の異なった時空から構成されているのに、別の空間と別の生命及び物質形式の存在を認識できないため、脳が単純で頑固な人に全て迷信だと決め付けられたのです。これは、我々人類の道徳を墮落させた最も肝要な原因です。多くの人は科学という棍棒で一番古く、本質的な人の徳性を叩いているのです。これはなんと危険なことでしょう！ 人に徳がなくなったら、神は人を人間として見なさなくなるのです。もし、神が人を人間として見なさなければ、人間は淘汰され、新たに発展するのです。

「我々人類は進歩しているのです。猿から今日まで発展し、とても輝いているのです」と思う人がいますが、しかし皆さんに教えますが、歴史では、先史時期、十万年以前、あるいはもっと、もっと昔、一億年前に、この地球に遥かに高度な文明が存在していましたが、ただ異なる時期に壊滅されてしまったのです。なぜ壊滅されたのでしょうか？ 物質や技術の発展はとても速かったのですが、道徳がついていかず、あるいは破壊されたからです。それでその存在を許されず、壊滅されてしまったのです。現代科学で考えると、物質の運動には規律がありますので、ある程度の形式まで発展したら、必ずほかの形式が現れてきます。例えば地球が宇宙で運行している途中、いずれかの星に衝突され壊されるかもしれません。どんな原因であるかは別として、現在、科学者は確かに、我々の星に多くの古い文明の遺跡が存在していることを発見しました。しかも、これらの文明遺跡は現在より遥かに昔のことであり、数十万年以前、数百万年以前のものもあれば、数千万年以前のものもあります。各時期に存在した文明、残った遺跡はそれぞれ異なり、同じ時期のものではないので、一部の科学者はこの問題について考えているのです。すでにこのような論点を提起した学者がいます。つまり先史文明が存在し、先史文化があると言っています。これは科学者が言ったことです。我々修煉界ではもっとはっきりと分かっています。確かに今期の人類の文明の前に、多くの回数にわたって人類の文明が存在していました。道徳が腐敗墮落したので、もちろんこれは我々が見たのですが、その後この文明が存在しなくなります。壊滅された古代ギリシャ文化から当時の人類の腐敗、墮落の遺跡を見出すことができるのです。

人間は猿人から進化してきたと思う人がいますが、皆さんに教えますが、人は絶対に猿人から進化してきたものではありません。ダーウィンが提出した理論では人が猿人から進化してきたのですが、彼は当初この理論を打ち出した時、おどおどしながら打ち出したのです。この理論には疑わしいところが多く、完璧なものではないのですが、人に受け入れられ、ずっと今日にまで至りました。皆さん考えてみてください。彼の提出した猿から人まで進化するというその中間の過程、千百万年というこのような過程は見つけられていないのです。なぜ人と猿との間の人が存在しないのでしょうか？ 人間だけではなく、彼の言う進化する動物においては全て中間の過程がありません。そして、オーストラリア大陸に存在する種と他の大陸に存在している種とはなぜ異なるのですか？ 彼は説明できません。この疑わしいところの多い進化論が人に受け入れられています。これこそおかしいのです！

実は我々の見たところでは、人は猿人から進化してきたのではなく、各時期に各種の生物が存在していたに過ぎません。人類の生存している地球、大陸プレートは変動するもので、変化しています。地質学者はアジア、ヨーロッパ、アフリカ、南アメリカ

カ、北アメリカの陸地を大陸プレートと名付けていますが、大陸プレートは常に変化するものであるため、その陸上にある文明が海底に沈み、他の大洋から一つの陸地があがってくるかもしれません。このように絶えず変化しています。現在の人々も太平洋や大西洋、インド洋、多くの大洋の海底に古い高大な建築物があり、文明が存在していたことを発見しました。しかし調べたらいずれも数十万年、数百万年、さらに久しく遠い年代に存在したものだと分かりました。少なくとも我々の現在の人類が知っている範囲では、この数十万年の間に大陸プレートに変動は発生したことがありません。それでは、それはいつ海底に沈んだのでしょうか？ きっともっと前に、数十万年前あるいはもっと久しい以前に沈んだのです。ですから異なる大陸プレートが変動した時、その上にある生物の種は違うものであり、進化してきたものではありません。似ているところがありますが、同じ生物の種ではありません。絶対に違います。

もちろん私は佛法を説いていますので、常人の理論とは違います。これはさらなる高い認識で、真に人類を認識しているのです。皆さんに教えますが、人は猿人から進化してきたのではなく、宇宙の中で生じたのです。ご存知のとおり、中国に道家の太極学説があります。この太極学説は陰、陽という二つの気を唱えています。陰陽という二つの気が生じる前は混沌状態で、無極と言います。それから太極が生じ、陰、陽という気があって、太極は万事万物を生みます。これは道家の理論です。私はこれがとても科学的だと思います。実は私は一つのこと気づきました。もちろんこれは私だけが発見したわけではありませんが、この宇宙にある歴大な物質の運動により、生命が生じるのです。我々に見えない物質は、それが存在しないとは限らないのです。例えばこの空気は、人の目でそれを見られませんが、それは存在していないのですか？ 存在しています。空気よりもっとミクロの物質はありますか？ とても多いのです。ミクロの物質よりもさらにミクロな物質も多くあります。これらの歴大な物質はなぜこのように生存できるのでしょうか？ 実は皆生命の存在なのです。いかなる物体にも生命がありますが、我々常人のこの空間に顕現しないだけに過ぎませんので、あなたにはその生命の存在が見えないのです。後で私はそのわけを述べます。いかなる物体にも生命があります。この歴大な物質は運動することにより生命が生じるのです。このような生命はさらに高い次元では多くの場合は無形ですが、人類の形になる場合もあります。あるいは動物の形、物質の形、植物の形状になっています。

それではなぜ人間にまで至ったのですか？ 最初は人間という段階はなかったのです。この宇宙の物質が運動によって生じた生命は皆宇宙の特性に同化しているものであり、つまりそれは宇宙の法理、真、善、忍に同化しているのです。これも真、善、忍の中から生じたからです。それで、生命が高い次元の空間に多く生じた時、その生存環境は複雑になり、彼らの社会の生存形式を持つようになります。人類の社会のよ

うに、人がどの様に生存するのかによって、その社会形式が存在するわけです。社会形式ができてから、これらの生命は次第に変化し、複雑になりました。一部の生命には私心が生じ、その次元における宇宙の特性の生命に対する要求から逸脱したから、その境地にいられなくなり、下へ落ちてしまい、低い次元に落ちてきたのです。また彼はこの低い次元でさらに悪くなったら、また下へ落ちてしまいます。このように、この生命は長い歴史の年月の中で絶えず悪くなり、次第に一層の空間、さらに一層の空間へ落ち、ついに人類のこの層の空間に落ちてきたのです。それから低能な生活を送り、低能な方式で子孫を繁殖しています。

しかし、当初は人類というこの層の空間がなかったのです。それで覚者、高級生命は人の為の一つの空間を造り、最も迷い深い空間を造り、人のほんのわずかな本性が失われるかどうか、まだ戻れるかどうかを見てみようと思ったのです。こうしてこのような一つの空間を造りました。当時はただ人に、生命に最後の機会を与えるためだけで、あまり深く考えていませんでした。ところが後になって、この空間はあまりにも特殊であることに気づきました。この空間にいる生物は皆他の空間が見えず、他の空間の生命が見えないのです。しかし宇宙の他の空間では、皆別の空間の景象を見ることができるのです。いかなる空間の生命も、その身体が空間の中を飛んで、漂って行ったり来たりすることができます。いかなる次元の空間の生命もその身体を大きく変えたり小さく変えたりすることができます。現在の科学者は、人の思惟は物質で、電波のようなものだと思っています。電波についてあなたは無論それは物質だと認めます。ところが別の空間の中で見たところ、それはそんなに簡単ではありません。人の思想は自分の想像したものを作り出すことができますし、思ったものは現実とすることができます。人にはエネルギーがないので、それが作り出されてしばらくすると散ってしまいます。しかしエネルギーを持っている大覚者、天人、高次元の生命ならば、思いついたものは、確実に存在することになるのです。欲しいものがあれば、思いつきさえすればそれを作り出すことができます。ですから昔の人は言いましたが、佛は、欲しいものなら何でもあり、大いに自在なのです。それらの生命は皆このように存在しているのです。しかし人類はこの空間に押し出されてから、このような存在になってしまったのです。

皆さんはいずれも母体から出て来たので、自分をあまり悪くはないと思っています。ある人は商売がとても上手であったり、ある人は高官になったり、ある人はとても自在に生きていたりするので、他人よりは偉いと思います。実のところはあなたも苦しいのです！ あなたは自分が以前どのように生きていたのかを知らないからです。例えば、宗教の言い方では、人間が活着ていることは苦しみだと言っています。なぜでしょう？ あなたが母体から出て来た時、すでにこのような分子から構成された物

質身体を持ってしまったのです。別の空間の生命は分子で構成したこの層の身体を持っていません。彼の最も表面の身体は原子から構成されています。しかし、分子で構成された表面物質はこの空間を形作ったのです。人間の肉体にしても分子で構成されたものです。この層の物質から構成したこの身体は、生まれるとあなたはこの肉体を持ってしまって、分子で構成したこのような目を与えられ、他の空間を見ることができなくなり、そういうわけでこの迷いの中にいるのです。それで、あなたは迷いの中にいて宇宙の真相が見えず、井戸の中に座って天を観るように生きているとも言えるではありませんか。これだけですでにかなり哀れな生きざまになっています。その上に、人はこの身体を持っていると、身体に痛みが生じ、寒くてもいけない、暑くてもいけない、のどが渇いてもいけない、歩いて疲れてもいけない、とにかくあなたに多くの不都合をもたらし、多くの苦痛をもたらすのです。しかも生老病死はいずれにしても存在し、常に病気に罹り、あなたはとても自由自在に生きていると思いますが、実はあなたはその苦痛の中で他人より少し良くて、苦痛が少し少ないのに過ぎず、あなたはそれでとても自在だと思ってしまうのです。人間がこのような生きているので、このような生存の環境の中で人は次第に人の本性を失って、ますます神の存在を信じなくなり、その上に実証科学が完璧でないため、人は人の道徳基準を失ってしまい、最も危険な境地に滑り落ちて来ました。

しかし、人類社会にはまた一つ非常に大きな良いところがあります。人は苦しみがあるので、修煉することができるのです。なぜ佛はいつもその佛界の中の佛なのでしょう？ なぜもっと高く向上できないのでしょうか？ なぜあの菩薩は修めて佛に成就できないのでしょうか？ 少しの苦しみを嘗めたくても探すところもありません。つまり迷いの中でその佛性を固めることができ、初めて修煉することができるのです。そこに迷いはなく、何でも見えます。何でも見えるなら修めても何にもならないのです。ですから修は先にあり、悟は先にあり、見えるのは後にあります。「私が見ることができたなら、私も修めます。私に見ることができないなら、私は修めません」と言う人がいます。もし皆に全て見させたら、常人社会は人類社会ではなくなり、神の社会になってしまいます。百パーセント、一人も漏れず、誰もが修めて、許すべからざる極悪非道の人、もっと悪い人でも修煉するのです。考えてみてください。それはまだ人類社会でしょうか？ 人間が悪くなったからこそこの環境の中に落ちて来たのです。あなたが元へ戻りたいなら二つの要素を備えなければならず、一つは苦しみに耐えること、一つは悟ることです。悟るということは、イエスは信じることを説き、東方では悟ることを説きます。あなたはこれらのものを失ったら、修煉することができません。しかし往々にして修煉者は、修煉は非常に難しいと思いますが、なぜでしょう？ 実は修煉は難しくありませんが、難しいのは常人の心を放下できないからです。歴史をたどっても何が佛法なのかを人に教えたこともありません。人々は皆、

釈迦牟尼佛の説いたものを系統的な佛法としました。皆さん考えてみてください、この膨大な宇宙は相当に完備しており、相当な知恵があるものなのです。釈迦牟尼佛はただ佛理のわずかな一部分しか説いていませんでした。しかも、釈迦牟尼佛も自分の知っているものを人に全部説いた訳ではなく、ただ人に人の知るべきことを説いただけなのです。ですから、現在人類社会に残された佛法はただ佛法の中のほんの少し、ほんの少しだけなのです。先ほど言ったように、私が人類社会に残したものはとても多く、私は前人が今までやったことのない事をやりました。私が書いたこの『転法輪』は、言語が規範に従っていません。それは、現在の規範された言語ではさらに高い次元、さらに大きな内涵を含むことができないので、私は口語の方式で書いたのです。

ここまで話してきましたが、今日は時間も十分ありそうですから、私は皆さんにもう少し多く話しておこうと思います。しかし、ここに在席している一部の人は私がいまよりも高いものを説いたら受け入れることができないかもしれません。例えば全く学んだことがないけれども、とても良いことだと思って聞きに来た人がいるかもしれません。一部の人は何か少しのものを得ようと思っているかもしれません、あるいは私が何を演じて見せるかを見に来たのかもしれません。いろいろな心態を抱いて来たのです。私が今日もしここであなたに演じてみせると、あなたは楽しくて笑い、魔術や手品を見るようで、私と法を大切にしないのです。佛法を伝えることはこのようにすることを許しません。私はただあなたにこの佛法を説くだけで、信じるか信じないかはあなたに任せます。しかしその威力はとても大きく、私は人に与えようとするもの、人が修められるものを全てその法の中におさめました。私の録画テープ、録音テープと私が書いたこの本を、あなたが見さえすれば、感じるすることができます。あなたが見さえすれば、あなたの身体が浄化されて、あなたを病気の無い状態に到達させます。あなたが修めさえすれば、常人の見えないものが見え、あなたが修めさえすれば、常人の感じられないことを感じられます。境地が益々高くなり、益々美妙になり、全てその本の中にあります。しかしあなたが修めなければあなたには見えません。あなたは一回だけ見れば全部見られるようにしたいと言うのですが、それは不可能です！ あなたは自分の境地の中で、自分の理解の程度の中でのものを見られるだけです。さらに美妙なものはあなたが修めて向上し、絶えず深く学び、深く修煉し、深く見れば、それで初めて感じることができ、見ることができ、知ることができるのです。

私が説いたことは高すぎて、多くの人は理解できないかもしれません。私はこう思いますが、私はこの二年来すでに法を系統的に説いたことはありませんでした。と言うのは、私は人に残すべき法をすでに全部残しています。私は講演する時、録音させない場合もあります。なぜでしょうか？ 多くの人は新奇を追求しているのです。先生がまた何かを講じたのか、また何かを講じたのか、彼らはこれらのものを追求する

のであって、着実に修煉しているのではないからです。私が人に与えた修煉のものは『転法輪』だけで、この本は系統的な法なのです。他に私が説いたことは『転法輪』を解釈するだけに過ぎず、皆補助的なものです。録音した後、社会に伝わると、実修することに邪魔をもたらします。その『転法輪』は低いところから高いところまで全部系統的なもので、それに対して私が現在説いたものは現在の人に対して説いたものだけです。

私はまた一つの問題を強調しておきたいと思います。つまり我々修煉者は専一を重んじなければなりません。私は皆さんに教えておきますが、各家の長所をとるという話は常人の中の言葉で、修煉界の言葉ではありません。技術を学ぶ場合には、誰かの技術が良いならその人のものを学ぶ、これは問題にはなりません。しかし、高次元の空間から見れば人類の理は反対になるので、人類が良いと思うことは、良くないことかもしれず、それが全て反対のものになるのです。我々のこちらは昼ですが、あちらは夜なのです。あなたが正しいと思うことも、正しくないことであるかもしれません。なぜでしょうか？ 私は皆さんに一つの簡単な道理を説きます。皆さんが知っているように人は苦痛があると良くないと思い、あるいは誰かに苛められたら気持ちが良くないと思って、良くないと感じてしまいます。私は皆さんに教えますが、人は少し苦しみを嘗め、少しの難儀に遭うことは良いことなのです！ 見てください、私が説いたことはあなたの思っていることと違います。なぜでしょうか？ 高次元の空間に至るとこの理は全く反対になるからです。高次元から見れば、人が人になることは目的ではないと思っています。あなたは人類社会の中で少し難儀に遭い、あなたの前世に借りた業力を返せば、もっと高い次元の空間に戻ることができ、ひいてはあなたはあなたの生命が生じたところ、最も美しく素晴らしいところに帰れます。高い次元に行けないとしても、来世は業力が小さくなったので苦難も少なくなるはずですよ。

しかしあなたの借りた業力を返さなければ、あなたは高次元の世界に行けません。私がこの道理を説いたように、この瓶の中に汚い物を一杯入れて、蓋をしっかりと締め、水の中に捨てたら、ストーンとすぐ沈んでしまいます。もしあなたがこの中の汚い物を少し捨てたら、それが少し浮き上がってきます。また少し捨てたら少し浮き上がってきます。より多く捨てたら、あなたはそれに蓋をしてから試してみてください。あなたが押さえても沈められず、それが自分で浮き上がってきます。我々人が修煉するのと同じで、あなたの身体は生生世世、つまりあなたは各世、各生の時に、全て人を苛めたり、人を騙したり、あるいは人を害したり、殺生したり等の事がありますし、さらに良くない事をしたことがあるかもしれません。ですから借りたこれらの業力をあなたは返さなければなりません。この宇宙の中には一つの理があって、失わなければ得られず、得るには失わなければならないと言います。借りたものは返さなければな

らず、現世に返さなければ来世に返す、必ずこうなのです。ですから人は今苦痛を受けたら、それは偶然だ、人は自分に不公平だ、他人が良くないと思ってしまいます。皆さんに教えますが、すべて偶然なことではなく、すべて以前借りた業力がもたらしたのです。もし人に業力がなければ、街を歩いているとき、誰でもその人に笑顔で接し、知らない人でも進んでその人のために奉仕するので、彼には楽しいことばかりです！ しかしこのような人が人類の空間で生活するわけではなく、彼は天上に戻るはずで、人はこうなのです。人には業力がありますので、思想を浄化できなければ永遠に修めて向上することができません。まさに私が今話したこの道理の通りなのです。

人は少し苦しみを嘗め、少し難儀に遭うことは悪い事ではありません。あなたは少しの難儀に遭うことによって、業力を返すことができ、あなたは真に美しく素晴らしい所に行き、永遠に再び苦しみを嘗めないのです。あなたは人類社会でいくら幸せに生きていると思っても、あなたの家に億万のお金があっても、あなたはいくら高官になってもたかが数十年、あっという間に過ぎてしまいます。皆さん考えてみてください。転生の時、あなたが来る時は裸で、行く時も裸です。あなたは何を持って行かれますか？ あなたは何も持って行かれません。あなたは誰に残して行くのですか？ あなたは自分の後代に与えたと思うかもしれませんが。しかしあなたが次回に再び転生した時、彼はあなたが誰かを知らず、あなたが彼の所に行って働き、床を掃除しても、彼もあなたに良い顔をして見せるとは限らず、あなたに一銭でも多く稼がせるとは限りません。本当にこうなのです！ 人間はまさにここで迷っているのです。

我々はここで人生の本質の道理を説いています。特に我々修煉者は、皆さん考えてみてください、我々が苦痛を受けた時、他人があなたを苛めた時、他人があなたに迷惑をもたらした時、あなたが何かの物質的利益を失った時、私が見るところではそれは悪い事だとは限らないのです。この宇宙の中に一つの理があるので、失わなければ得られず、得ようとするには失わなければなりません。さらに一つの特徴があり、あなたが得たのに失わなければ、それはあなたに強いて失わせます。これが宇宙の特性なのです。厩大な宇宙の一切の物質は皆生命であり、一切の物質は皆真、善、忍から構成されたものです。ですからいかなる物体、石や鉄鋼、空気、人類が造り出したいかなる製品や物質にしても、その構造のミクロの成分はいずれも真、善、忍という特性から構成された物質なのです。この厩大な宇宙の中ではまさに真、善、忍で構成されているものです。それが宇宙の中の全てを均衡にしています。ある人は人を殴ったり、人を罵ったり、人を苛めたり、他人に苦痛をもたらしたりする時、自分はとても嬉しく思い、得た側に属します。常人は彼に、あなたは本当に能力があって、えらい！ あなたは損をしていないと言うでしょう。しかし、私は彼が大変大きな損をしたと思います。なぜだと思いませんか？ 彼が良くない事をした時、彼は得た側に属し、他人

を苛めて、彼が得たと言えるので、それで彼は失わなければなりません。相手が受けたのは苦痛なので、幸福を失うことに等しく、そこで相手を得るべきだということになるのです。どのようにして得るのですか？ あなたは彼を一発殴り、彼を一言罵れば、それであなたは自分の罵った強さ、殴った強さによって、自分の身体の周囲からその強さに比例する量の一塊の白い物質が飛んでいきます。この物質を徳と言います。それは相手のところに飛んで行き、相手の身体に落ちます。相手も人ですから、この道理が分からないかもしれず、お前が私を殴ったとたまらなくなり、怒ってしまいます。彼が怒ってしまえば、彼はこの徳を元へ押し返すことに等しいのです。彼がその後相手を一発殴り返し、相手に一言罵り返した時、彼はこの徳をまた投げ返してしまったということになるのです。二人とも失うこともなく得ることもなく、誰も得ていません。宇宙の法理は公平なのです。

もし一人の修煉者として、彼が心の中で放下できれば、「あなたは私を殴り、私を罵っても、私の心の中ではとても平然としていて、気にしません。私は修煉者だからです。あなたは常人ですから、あなたと同じような見識を持つことはしません」と言うのです。それでは皆さん考えてみてください。この人の道徳基準はすでに一般の人より高く昇華したのではありませんか？ 他人が彼を殴る時、彼に徳を与えるのではありませんか？ この徳という物質は演化して功となることができます。あなたの功はどこからきたのでしょうか。私は皆さんに教えますが、徳から演化してきたのです。宇宙の中から採集した幾らかの物質にあなたの徳を加えて初めて、あなたの功を演化することができるのです。あなたにこの徳がなければ、修めても功は出てこないのです。それでは彼があなたを殴った時、彼は自分の徳をあなたに与えて、あなたの徳が増え、あなたはさらに高く修めることができます。この道理ではないでしょうか？ あなたが得たものはこの常人からあなたに苦痛をもたらしたために得た補償よりずっと大きいのではないのでしょうか？ それでは彼があなたを殴り、あるいはあなたを罵り、あなたに何か迷惑をかけ、そのためあなたが苦痛を受け、その苦痛の中で自分の身体に帯びた業力、つまり前世に借りたその黒い物質を業力と言いますが、それもまた徳に転化し、それはまたそれに相応した一部分の徳をあなたに与えます。一人の常人として、皆さん考えてみてください、これで一挙両得になります。あなたは私に少し苦痛をもたらしましたが、私は却って二つの補償を得ました。

しかし一人の修煉者として彼は四つのものを得られます。この全てを受けた時、あなたが彼と同じ見識を持たず、心の中はとても平然としていて、殴られても殴り返さず、罵られても口答えしません。心の中がとても平静であれば、皆さん考えてみてください。あなたの心性は修煉して向上してきたのではありませんか？ もし彼があなたにこの迷惑をかけず、彼があなたに苦痛を造らなければ、あなたはどのように修煉

するのですか？ あなたはそこに気持ちよく座ったままで、お茶を飲みながらテレビを楽しむだけで修煉して向上できるのでしょうか。どこまでも高く修煉したいと思えばその通りにできる、これは絶対不可能なのです。この複雑な環境の中で、いろいろな困難にぶつかって、苦難の中でこそあなたは初めて自分の心を向上させることができ、初めて高い基準、高い境地に到達できるのです。そこであなたの心性は彼と同じようにしないことによって、あなたの心性は修煉して向上するのではありませんか。あなたは一挙三得です！ そのようにしてあなたは一人の煉功者として、次元を高め一日も早く圓滿成就に達したいのではありませんか？ そのようにしてあなたの心性を修めて向上してきたら、あなたの功も上がってくるのではありませんか？ 間違いなくそうなります！ このような一つの道理があります、つまり心性の高さは功の高さであるということです。この人は心性がさほど高くないのに、功ばかり伸びるもののでしょうか？ それは絶対に不可能です！ こんなことは存在しません。絶対に不可能です。ある人は、一部の修煉者の心性が私にも及ばないのに、なぜ彼には功があるのかと思っています。彼はこの方面ではあなたに及びませんが、ある面ではあなたに勝っているかもしれません。人は修煉する時、一つの心、一つの心を取り除くのです。取り除かれていない心が表に現れると彼はやはり常人と同じですが、その心を取り除かれて、なくなったらもちろん表に現れないのです。一人の修煉者として、あなたが苦痛を受けた時には、あなたは一挙四得です。冗談ですが、あなたはどこでこのようなお得な話を探せますか？

他人に殴られ、罵られたら、怒りがこみ上げ、心の中で怒るのです。あるいは他人が私を食いものにして、私から金を巻き上げて儲けるなどまったく我慢できません！ 人はこれらのものをとても重く見ており、甚だしきは蠅の頭ほどの小さな利益をも失うことができません。皆さん考えてみてください。この人はなんと哀れな生き方をしているのでしょうか！ 人はわずかな旨味を知ると、心の底から喜んでいきます。これしきのわずかな得の為に生きており、人は今こんな有様です。彼は自分が真に失ったものが何か分からず、これは最も恐ろしいことなのです！ この徳がなぜそんなに貴重なのでしょうか？ 皆さん知っているように、東方の老人は皆こう言います。徳があって初めて福があります。この福は幾つかの面を含んでいて、高官になるとか、大金持ちになるとか、家を持ち、土地を持ち、幸福がある等等は、いずれもその徳と交換してやってきたのです。それは人の生命についていくのです。人が死んだらそれは元神についていきます。あなたが転生したらそれもあなたについて転生します。徳だけでなく、黒色物質つまり私が今言った業力、この業力も人の生命についていくのです。この二種の物質とも人についていきます。昔の年寄りには言いました。悪い事したら報いに遭います。誰があなたに報いますか？ 誰があなたの債務を帳簿につけますか？ あなたのためにこれらの事を管理する人はどこにいますか？ しかしこの徳はあなた

の身体についており、しっかりとあなたについているので、来世はこの徳で決まるのです。業力が多ければ、あなたのこの一生は苦痛が多く、病気が多く、災難が多いのです。徳が多ければ、あなたの一生はお金が多く、福が多く、官職も高くなります。つまりこの徳がもたらしたのです。それでは一人の煉功者としては、この徳はさらに貴重なので、それを功に転化することができます。とりも直さずこのような道理なのです。

現代の科学でこのことが見えないのは、現代の科学はこの空間を突破できないからです。我々人類はどのような空間形式の中に生存しているのでしょうか？ 皆さんに教えますが、我々人類が生存するこの層の空間は二種類の物質粒子の中間にあります。粒子について、物理を学んだ人は知っている通り、分子、原子、原子核、クォーク、中性微子、それらは皆ある次元の粒子で、それがもっと大きな粒子を構成する物質の元素なのです。我々人間はどの次元の粒子の中に生存しているのでしょうか？ 我々人間が目で見ることのできる一番大きなものは星で、一番小さなものは顕微鏡の下で見ることのできる分子です。実は我々人間は星と分子との間のこの一層の空間の中に生存しています。我々はとても広く、果てしなく広く、大きくて比べるものはないと思っています。私に言わせると現代の科学は発達しておらず、宇宙船が幾ら高く飛んでも、我々のこの物質空間から飛び出していません。コンピュータが幾ら発達しても人間の脳とは比べるべくもなく、人間の脳はいまだに謎のままであり、したがって人類の科学はやはり非常に浅いものなのです。

皆さん考えてみてください。我々人類が星と分子という二種類の粒子の間に生存しており、そして分子が原子から構成されたもので、そこで原子と分子との間の空間はどんな様子なのでしょう？ 現代の科学者は原子の一つの点、その一つの小さな構造しか認識できません。実は原子の存在するところはそれも一つの面であり、この面で構成された物質空間も相当巨大ですが、あなたが発見したのはその中の一つの点であるに過ぎません。それではこの次元の面の中で、この空間はどれほど大きいのでしょうか？ 我々の距離を測る基準は、いつも人類自身の現代科学の角度に立ってすべてを量っています。あなたは実証科学の枠及び概念から飛び出さなければなりません。あなたがその空間に入るには、その空間の形式に符合して、初めて入ることができます。原子から分子までのこの距離は科学により分かったのは約二百万個の原子が並んで始めて原子から分子に到達できるということです。彼が認識できるこの距離だけでもすでに相当広いのですが、あなたは現在の人類のこの実証科学の枠という状態の中に立ってそれを認識してはいけません。それでは皆さん考えてみてください。原子から原子核までの間はそれも一層の空間ではありませんか？ それでは原子核とクォークとの間はどれほど大きな空間距離がありますか？ さらにクォークから中性微子ま

での間ははどうでしょう？ もちろん我々現在の人類の科学は中性微子までしか認識できません。見ようとしても見えず、機器で測って、その存在形式を知ることしかできません。実は物質の本源物質までどれほどかけ離れているか分からないのです！

私の言ったこれは最も簡単な空間の存在形式です。我々人類の全ての物質は、あなたが見えないこの空気の中に存在する全ての物質と見ることのできる物質、例えば、この鉄や、セメント、動物、植物、物質、さらに人の身体を含め、いずれも分子から構成されています。人類は分子という面の上に生存しているのであり、まさに一枚の立体画のようで、あなたはこの面に生存しており、そこから抜け出せないのです。人類の科学もこのわずかな空間の内に局限され突破できないのに、また科学はいかに発達しているかと言い、一切の学説を排斥します。人類の技術がさらに高く宇宙を認識することに到達することはできず、もし本当にこの層の空間を突破できれば、別の空間の生命の存在形式、物質の存在形式、その中の時空の構成の構造が見えるはずですが、しかし、我々修煉者は見ることができます。佛こそが最高の科学者なのです。

私が天目を開くことを説いた時にこの問題について語ったことがあります。人は目を使わずに物を見て、我々のこの天目から見ますが、つまり両眉の間、あるいは道家のいう山根、鼻の付け根というところから一筋の通路を開いて、直接あなたの松果体に通じさせます。医学上では松果体といいます。道家の煉功者はそれを泥丸宮と言います。即ちそれを指しているのです。しかしこの松果体の前半部に、医学者はすでに人間の目のあらゆる組織構造を備えていることを発見しました。現代の医学者は、なぜこの中に一つの目があるのかとても不思議だといぶかりました。それを退化した目であると認識し、やはり進化論によってこれらのことを解釈しています。実はそれはこのように存在しているもので、まったく退化したものではないのです。人間が肉眼を使わずに物を見る時、もちろんこの肉眼でも良く修煉できた時、肉眼も突破してこのような機能を備えることができます。佛法は無辺なのです。一般に目を使わずに、分子で構成された目を使わずに見れば、この空間を突き抜けて別の空間の景象を見ることができます。とりも直さずこの道理なので、修煉者は常人の見えないものを見ることができるのです。もちろん一部の常人は、彼の一生の中でぼんやりとしているうちに、偶然に何らかの不明な現象を見たことがあります。例えば、誰かが目の前をちらっと通り過ぎたのを見た、あるいは何かを見た、何かの音声を聞いたといったことです。それはぼんやりとしながら真に別の空間の状況を見たり、聴いたりしたのかもしれませんが。人の天目はあまりきつく閉鎖されておらず、あるいは耳もあまりきつく閉鎖されていなければ、偶然に別の空間の音声が聞こえ、あるいは別の空間の何らかの現象が見えます。

私は今人類の生存しているこの空間のことを言いました。実は我々人類が生存するこの星は最大の粒子、最大の物質ではありません。星以外にまださらに大きな物質があるのです！ ですから釈迦牟尼佛の目は極めてミクロ的にすでに相当ミクロ的な物質を見ることができたのです。巨視的にはすでに相当大きな、巨視的な物質を見ることができました。しかし釈迦牟尼佛は最後までこの宇宙が一体どれぐらい大きいかを見ることができず、そこで彼は「其の大は外無く、其の小は内無し」と言ったのです。この宇宙はなんと歴大でしょう！ どれほど複雑なのか皆さん考えてみてください。人類の知り得るような我々のこの空間、この形式ではなく、それは相当に複雑なのです！ この種の空間形式以外に、また縦方向に存在する空間形式があり、しかも縦方向の空間の中にまた数多くの単元世界があり、とても複雑なのです。私の言ったこの単元世界とは天国などを指しているのですが、各空間にまた違う時空が存在していて、この原子から構成した空間は、その時間が我々のこちらの分子で構成した空間の時間と同じでありえるでしょうか。考えてみてください。その空間概念、その距離は我々のものとも違い、全て変化が発生してしまいました。あの宇宙人の空飛ぶ円盤（UFO）は、なぜ瞬時に現れたり消えたりすることができ、そんなに速く飛べるのでしょうか？ それは別の空間を通っているのです、このように簡単なのです。人類は現在自分の科学の立場に立って宇宙の中の不明な現象を認識し、あるいはこの方法で修煉、あるいは宗教を研究しているので、永遠に究明することができません。その思惟方法を変えなければならず、別の立場に立って認識しなければなりません。人類の歴史上において、科学というものは現在のヨーロッパ人が発見し、発明したこのいわゆる実証科学だけではなく、この一筋の道だけでなく、まだ別の道があります。地球上で発見された、歴史上にかつて存在した古い文明の発展した過程はすべて生命物質、宇宙に対する別の認識の道なのです。中国の昔の科学は別の道を歩みました。もちろん中国のこの文化はそれが及んだ次元はとても高く、人の道徳が駄目になったため、それも抑制されたのです。ですからそれは伝わってきませんでした。西方の最低のこの科学の形式は却って人に残されましたので、それはかなり不十分なものです。

先ほど人間は我々のこの物質空間の中から生まれて来たのではないことと人間になる目的を説きました。人がもしさらに滑り落ちて行けば壊滅、徹底的な壊滅に臨むこととなります。それは、形神全滅と言ひ、とても恐ろしいことです！ ですから佛は人を済度しようとし、つまりあなたがこのような絶境に臨まないようにさせ、あなたを人間の苦痛の中から済度し天国に上がらせ、それが真に、根本から人間の苦を解決するのです。現在の人々が佛を信じる基点と古人が佛を信じる基点とは同じではなく、過去の人々が佛を信じるのは佛を拝み、佛を修め、佛を敬うことであり、他に何の心もなかったのです。現在の人々が佛を信じるのは佛を求めるためです。しかし求めるといふ心は佛にとって最も醜く、最も汚い心なのです。ですから皆さん考えてみてください

い。佛はあなたを済度する為にいるのに、あなたは常人の中での安逸、幸福を求めています。あなたを常人の中でもし真に幸せにさせ、気楽に生きさせるなら、あなたは本当に佛になろうと思わなくなります。あなたは現在すでに佛なのです。これはどうして可能なのですか？ 人間は生生世世に借りた業力、やってしまった悪い事を返さず、幸福を求めるばかりで、それはどうやって求められるというのでしょうか？ あなたには一つの方法しかありません。修めることによって、初めて借りた業力を消去することができるのです。あなたは佛になりたいと思わないとしても、一人の良い人にならなければならず、善い事を多く行い、悪い事をしないようにすれば、あなたは初めて将来幸福になることができ、あなたの本当の自我の生命をさらに長く続けることができます。しかし人間は転生する時に洗脳された後、良くない環境の中に転生し、環境に左右されたまま流されて壊滅の縁（ふち）に至ってしまうかもしれません。

今私は釈迦牟尼佛の言ったこの宇宙は其の大は外無く、其の小は内無しということを行いました。人によってはまだこの話をあまり理解できないかもしれません。つまり釈迦牟尼佛はどんな問題を見ていたのでしょうか？ 彼は三千大千世界の学説を説きました。釈迦牟尼佛によれば、我々人間と同じように物質の身体をもつ人は、別の空間の中に生存している人だけではなく、このような我々人類社会という世界が三千あります。この銀河系の中で、三千のこのような星があります。しかも、彼はさらに一粒の砂の中に三千大千世界が含まれていると言いました。彼は一粒の砂の中に三千の我々人類が生存しているこのような空間があると言いました。しかし、そこでの人の大きさの比例を、現代科学の認識の概念で認識してはならず、それは別の時空形式の中に生存しているのです。

今私が言ったこの話について人によっては不思議に思い、理解できないかもしれません。皆さん、試しに考えてみてください。地球はとても規則的に運行しています。そして電子が原子核を巡って運行している時は地球が太陽を巡って回っていることと何の違いがありますか？ 同じ形式なのです。もしあなたが電子を地球ほど大きく拡大して見れば、その上に生命があるかどうかが見えるのではありませんか？ どんな物質がその上に存在していますか？ 釈迦牟尼佛は、其の小は内無しと言いました。彼はどの程度まで見たのでしょうか？ 物質をミクロ的にすでにかなりミクロ的に見ることができました。彼は一粒の砂の中に三千大千世界が存在しており、一粒の小さな砂の中に三千大千世界があると言いました。それでは皆さん考えてみてください。釈迦牟尼佛が言った事が本当のことであれば、その砂の中にも、その世界の中にも河川、湖、海があるのではありませんか？ それではその河川、湖、海の岸にも砂があるのではありませんか？ それではその一粒の砂の中にまた三千大千世界があるのではありませんか？ それではその一粒の砂の中の砂の中にまた三千大千世界があるの

ではありませんか？ 下へ追って調べれば釈迦牟尼佛は限りがないと気づいたのです。ですから彼は、其の小は内無しと言い、物質の最も本源は何であるかを見極められませんでした。もちろんこの物質の最終的な本源について我々は以前説いたことがありますので、私はここで多く言わないことにします。説くことがあまりにも次元が高く、あまりにも奥深ければ、特に多くの人には中国語を聞いてあまり良く分からないので、私はこのようなことを多く言わないことにします。とりあえずこれくらいにしておきましょう。次に皆さんは修煉及び法の勉強の中での問題を聞いてください。私が解答します。

**弟子：**『転法輪』一、二巻を私達は読みましたが、その中で一つの話があまりよく理解できませんでした。私は以前密教の弟子でした。本の中に菩薩と如来佛の次元が現在劫難にあっていっていると言っているようです。

**師：**この質問はとても高いことを尋ねています。さらに高い次元まで修煉できた時に、初めて見ることができますし、認識もできます。もちろん私はあなたに簡単に、概括的に説くことしかできません。人間のこの層の法が法力を失ったのは、人類社会の道徳が皆落ちて、人の心の中の道徳観念が墮落してしまったので、正念がなくなってしまうということは法力を失ったということなのです。人類の社会では法が法力を失った時、人類が滑落するのです。もし、この法が人類のこの社会で法力がなくなったのではなく、かなり高い次元の空間に逸脱が現れたら、物質生命は下へ落ちてしまうことになり、悪くなってしまったので、下へ落ちるのです。もし、広い範囲でこのような問題が出現すれば、もはや人類だけの問題ではなくなり、例えば大法が上から下へ貫いているので、上で少しずれたら、下ではもう完全にくずれてしまうのです。射撃と同じで、手元で僅かにずれると、その弾丸がどこに飛んで行くのか分からなくなります。なぜ下ではこんなに大きな変化が発生するのでしょうか？ 人類社会の変化は非常に恐ろしいのです！ 麻薬の常習や、麻薬販売など、人は悪事の限りを尽くし、多くの人々が限りなく悪事をはたらくのです。マフィア、同性愛、性の乱れ等々は皆人間としての基準を失ってしまったのです。佛はどのようにこれらの問題を見ているのでしょうか？ 政府が許しても、法律が許しても、それは人間が自ら許しているだけで、天理はそれを許しません。以前は美しく良いものが人類の追求する対象でしたが、現在売っている玩具や、描かれた絵は、全て粗製濫造されたものばかりです。それはどういうものなのですか？ 誰もはっきり説明できません。一切の人間の観念が全て反対の方向へ変化してしまいました。一山のゴミがそこに並べられたら彫刻の大家の作品にもなるのです。全社会の現象はほとんどこうなのです。店の中の玩具、甚だしきは大便秘の形をまねて作った玩具さえも売られています。過去の人形はとてもきれいに造って初めて人々が買いたくなかったのですが、現在ではどくろや、とても凶悪な人、

妖怪や化け物を玩具にし、しかも売れ行きがとても良く、善の心のない人がそれを買いたがります。これはどういう問題を物語っているのでしょうか。つまり人の観念がこれほどまでに滑落してしまったということなのです！ 過去、歌を歌う者は、声が美しく、音楽学校の卒業者で、体型や姿勢も優美なものがよしとされました。音楽はとりも直さず人に美を感じさせるものなのです。現在は男らしくもなく、女らしくもない長髪の人が、アー、アーと力を入れて叫んで、テレビで持ち上げればスター歌手となってしまうのです。全てが墮落していますが、人類のすべては下へ滑落しています。さらに多くの現象は、恐ろしさの極みです！ あなたが修煉しなければ気づかないでしょう。人類の宗教に対する認識も違ってきましたし、政治として考えるようになってしまいましたが、人々は口を開けば佛を罵ります。料理のメニューには「佛跳牆」

(佛が壁を飛びこえる)というものさえあります。これこそは佛を謗るものです！ 現在の人類社会はどうなってしまったのでしょうか！ あなたが修煉しなければそれに気づくことはないでしょう。修めてから振り返って見れば驚いてしまうのです。皆さん考えてみてください。この人類はこの程度まで墮落してしまったのですが、それは単独のことではなく、この法が一定の空間の中で問題が起こってしまったからです。数多くの物質、数多くの生命が法から逸脱したことによって引き起こしたのです。私はあなたにこのように言うしかできません。あまりにも深く説いたら在席の多くの人には理解できないでしょう。私がこのように言えばあなたには分かるはずだと思います。

**弟子：**本来はとても聞きにくいのですが、この機会を掴まなければ恐らくもう機会がないと思っています。この問題は多くの人がまったく答えてくれませんでした。今日先生が来られましたので、この機会は大変得難いものだと思います。つまり数年前のある日、私は深夜十二時過ぎに密教の方法によって座禅をしました。私は以前密教を修める者でした。しかし私は飛行機のプロペラのように旋回し始め、私が表現できないほど速く飛び上がりました。私がこのぐらいの高さまで上がってから、頭上から出て来たのです。頭上から出るときに激痛があり、痛みを感じているうちに私はさらに上昇しましたが、私はかなり恐ろしく思いました。私の魂が行ってしまったかも知れないと思い、しかも私は自分の身体が見えませんでした。翌日に不思議な現象が発生しました。真っ昼間に私が部屋の中に座っていると、私は銀色の光輪、銀色の光が見えました。それから五分後に見えなくなりました。三日目に私は法輪が見えました。これはどういうわけでしょうか？

**師：**あなたは以前密教を練っていましたが、効果が得られませんでした。あなたになぜ法輪が見えたのでしょうか？ 我々はあなたが修める以前にすでにあなたの面倒を

見ていたからです。煉功する人が浮き上がるということはとても簡単なことですが、現在の科学者には解釈できないのです。実は人の身体の全ての脈が通じた時、その人は浮き上がることができます。浮き上がらなくても、軽やかに歩き、山を登るのも、階段を上がるのも疲れを感じないのです。これは脈が通じたからです。こうなるはずですが。元神が出て来たことに至っては、人によって元神が体から簡単に離れる人がいれば、なかなか出ることができない人もいます。体から離れてから法輪があなたの浮び上がった身体を率いて動かすので、回転はとても速いのです。あなたがそれ以上高く上がるのが怖くなったのは、あなたに当時その程度の高さのエネルギーしかなかったからです。初めてこのような問題に遭うと、それを怖がることは誰でもありうることです。実は我々の法輪大法を修煉して浮び上がった人はとても多く、このことはとても普通のことです。修煉者は修煉を始めてから、脈が通じ始めます。その後、大周天が通れば、その時に人は浮び上がることができるのです。

私はこのことを言いましたが、皆さんに一つだけ念を押しておきたいのですが、誰も「私が浮び上がることができれば、なんと素晴らしいことでしょう」というような考えを決して持たないでください。あなたに求める心が生じると、浮び上がることができるとしても浮び上らせないのです。煉功は無為を重んじ、空を説き、修煉する心があっても、何か得ようとする心があってははいけません。即ち煉功する心があればとて、功を得る心無しということなのです。皆このような気持ちを持って修煉しているのです。いつも成佛することを考えているなら、それは強い執着です。この心を取り除かないかぎり、永遠に駄目です。ですから修煉は常人の心を捨て去ることなのです。常人の中でいかなるものに対する執着も執着心なのです。あれこれ求めています、求めれば求めるほど得られなくなります。あなたがこの心を放棄して初めてそれを得ることができるのです。皆さん必ずこの理を覚えて下さい。常人として何かを得たいならば、それを求めても、学んでも良いのですが、努力すれば得られるのです。しかし常人を超えるものなら、放棄して初めて得られるのです。これは何と云うのでしょうか？ 求めずに自ずから得ると言うのです。

あなたが言ったその怖い問題について実際は何も怖いことはないのです。浮び上がれるなら浮び上がればいいのです。当時あなたに教える人がなく、常人の中で教えてくれる師父がいないからです。浮び上がって来たことはとても普通の現象で、それは人の意念の制御を受けるものです。あなたは自分が降りようと思えば、直ちに降りられます。あなたが上がろうと思えば上がれるのです。あなたがそれを恐れていれば、それは執着心なので、落ちやすいのです。ですからどんなことがあっても恐れなくて下さい。昔、ある人が羅漢に成就して、喜んでしまったために落ちてしまいました。なぜでしょうか？ 喜ぶ、人のこの喜びも情の現れで、一つの執着でもあるのです。

一人の成就した人としては、罵られても、悪口を言われても、気にすることなく、誉められても、心が動ぜず、だめだと言われても、気にしません。彼が喜んだので、落ちてしまいました。羅漢に成就することもなかなか容易なことではないので、最後にこの人は修煉しなおしました。数年して彼はまた羅漢に成就したのですが、今回は心の中で喜んではいけない、喜ぶとまた落ちてしまうだろうと考えていました。彼は心の中で自分が喜ぶことを恐れたのです。ところが彼は恐れたので、また落ちてしまったのです。この恐れることも執着心なのです。佛を修煉することはとても厳粛なことで、遊びではないのです！ ですから皆さんは必ずこの問題に注意しなければなりません。

皆さんが質問する前に私はもう一つのことを言っておきます。我々の煉功は必ず専一でなければならないのです。ここに在席している皆さんの中には以前密教を学んでいる人もいれば、佛教を信じている人もいます。多くの方はキリスト教や、カトリックを信じています。修煉は専一であるべきです。なぜ専一でなければならないのでしょうか？ これは紛れもない真理です。これは現在の末法時期に人が修煉できなくなった大きな原因の一つです。ほかにまた幾つかの原因があります。例えば、法を理解できないこと、混ぜ合わせて修煉することなどがあります。混ぜ合わせて修煉することが一つの主な原因です。この功を修煉する以上、もう他の功を修煉してはいけません。なぜこのように教えるのでしょうか？ つまり「各家の長所を取り入れる」という言い方は常人の言うことで、常人の技術や知識を求めるならこれが正しいのです。しかし修煉のこととなると、専一でなければならないという理があります。佛教の中ではこれを不二法門と言います。佛も修め、道も修めると言うなら、何も修煉できず、誰もあなたに功を与えません。「修は己にありて、功は師にあり」なのです。皆さん考えてみてください。気功で鍛えるだけで佛になれるのでしょうか？ 密教の場合は呪文を唱えて、その上に意念を加え、幾つかの手印を結べば佛になれるのでしょうか？ 人の意念は取るに足りないものです。ただの願望だけです。真に作用するのは師父なのです。「いずれも佛家のものなので、佛経も唱え、密教も学び、また佛家気功もやれば良いではないか？」と考えている人がいます。それは常人の認識で、神はこのように認識していません。皆さん考えてみてください。如来佛、阿弥陀佛はどのように修煉して成就したのでしょうか？ 自分の修煉方法に基づいて圓滿成就に達したのです。彼の功も自分の演化の形式に基づいて、自分の世界を圓滿させ、自身を成就させたのです。その一切はその修煉の過程の中で彼自身の修煉形式がもたらしたのです。

釈迦牟尼佛の圓滿成就に達する方法は「戒、定、慧」と言います。四禪八定等々を修め、彼の修煉方法に従っていかなければなりません。この法門で修めるには、あな

たの功も釈迦牟尼佛の修煉した功と同じであって、初めて彼の世界に修煉して行けるのです。密教を修煉したければ、密教の身、口、意の要求に従って修めて、初めて大日如来が主宰している天国に行けるのです。何でも修煉したら、何も得られないのです。浄土宗を修め、阿弥陀佛を念じ、その上に禅宗の理論も学ぶなら、あなたは同様に何も得られないのです。人は一つの身体しかありません。この身体を佛体、佛の身体に変えるのは、皆さんも知っているように、決して容易なことではなく、あなた自身ではできないのです。それは佛がやることで、人の身体を佛体に変えることは非常に複雑な事で、人類の最も精密な機器よりも複雑なのです。さらに、あなたの身体に機制を植えつけ、各種の佛法神通を圓滿させるたくさんの種を丹田の田に蒔いてあげるのです。この一切は皆、彼のその法門のものであります。そうして初めて、あなたは彼の法門で修煉することができ、初めてその佛の世界に修煉して行くことができるのです。もし専一でなければ、あなたは身体が一つしかないのに、どうして二つの佛の世界に一人のあなたを修煉させることができるのでしょうか？ 二つの佛体を修煉することは不可能です。佛はあなたがこうしているのを見ると、皆あなたに何も与えてあげません。心性が低いと思うからです。はっきり言えば、あなたは佛法を攪乱しようとする人なのです。如来佛が如来佛に成就したのは何と苦しく、難しいことだったでしょう！ 一人の如来佛が如来に成就するには彼はどれほど大きな苦に耐えて初めて如来に成就できたのでしょうか！ ただ一人の常人のあなたが、佛のものを変え、攪乱し、また二種類のもを一緒に混ぜ、二人の佛の悟ったものを勝手に扱うことは、これこそ、佛法を攪乱することではないでしょうか？！ これはこれほど重大なことなのです！ しかし現在の和尚と現在の人類は佛法を破壊しているのに、そのことに気づいていないのです。もちろん、あなたは知らないで、全てあなたのせいにはしませんし、咎めはしませんが、何もあなたに与えないのです。人が勝手に佛法を攪乱させることなどありえません。二つの法門の佛法、つまり二人の如来佛の法が全部あなたに攪乱されてしまい、それは絶対ありえないのです。ですからあなたが混ぜて修めれば、何も得られないのです。佛家のものだけを修めて、道家のものを修めず、全部佛家のものを修めれば良いということではないのです。佛家の禅宗も修め、密教も修め、浄土、華嚴宗、天台宗、何でも修めるならば、あなたはやみくもにやるだけで、それはでたらめで、何も得られないのです。本当に何も得られないのです。ですからあなたは必ず一つの法門に専念して修煉しなければなりません。それで初めて圓滿成就できるのです。

ここで私は一つの道理を言っているだけで、どうしても私李洪志の法輪大法を学ばせたいと言うものではありません。我々法輪大法は先史のある時期にかつて釈迦牟尼佛の佛教のように人類社会で広範囲に人を済度したことがあります。今期の人類の文明時期には伝えたことはありません。今期の人類が出現してから、我々は初めて再び

それを持ち出しましたが、人に伝えることはこれで最後かもしれません。しかも、永遠に破壊することはありません。もちろん我々には法輪世界があり、圓滿成就した弟子は法輪世界に行くことができます。どうしてもあなたに私の法を修煉させたいと言っているわけではありません。どの法を修めてもよいのです。正法でさえあれば、その法門の本当の教えを得ることができ、その法門で圓滿成就できると思うなら、それを修めればよいのです。しかし必ず専一でなければなりません。

私はさらに皆さんに言うておきましょう。佛は佛の本来の姿で直接あなたを済度してはいけないのです。大いに神通を顕し、佛がここに座って、あなたに法を説くなら、それは人を済度することではなく、法を破壊することになります。極悪非道の人も学びに行き、悟るということとはなくなるのです。本当の佛がそこにいるのを見て、誰が学ばないというのでしょうか？ 全人類が学びにいきます。このようなことではありませんか？ ですから常人に転生した師父だけに教えることができ、人を済度することができますのです。この中に一つの悟りの問題があります。信じるか否かはあなた次第です。しかし法に対してあなた自身が斟酌すればよいのです。いずれにせよあなたに責任を持つため私はこの道理を話したのです。あなたに修煉したい気持ちがあるから、教えたのです。そうでなければ、私はあなたに責任を果たさなかったこととなります。あなたにこのような機縁があって、ここに座った以上、私は教えます。現在いかなる法門で修煉しても非常に成就し難く、見守ってくれる人はなく、むやみに修煉しているのです。もちろんあなたが自分で分別することができるのなら、修めればよいのです。圓滿成就まで修めることができると思えば、どの法門で修めてもよいのです。このような道理です。佛は人のために考えていますので、皆さんに教えておきたいのは、修煉したければ専一でなければならぬということです。動作において他のものを練習してはいけなだけでなく、他の法門の経を読んでもいけないのです。あなたの考えの中に別の法門のものがあってもいけないのです。その意念も除去しなければなりません。煉功の時、多くのものは意念にたよっているのです。何かの意念が生じると、それは求めていることとなります。何かを求めているならば、そのものがやってくるのです。そうすると、あなたの功が乱れ、法輪は変形し、効力を失い、今までの修煉は無駄になってしまうのです。

皆さんに教えますが、この法輪は大変貴重なもので、それをあなたに与えましたが、私がこの法を伝える前に、千年も道を修めた人たちは法輪を得ようとしても得られないのです。法輪を得たら、この人の修煉は半分できたと言えるのです。功は自動的に法輪に演化されます。心を修めさえすれば、功が伸び、向上してくるのです。法輪は高級生命であり、つまり、あなたの生命よりも高級です。あなたに与えましたが、あなたが修煉したいということで、佛性が現れてきたからです。この一念が生じたから、

あなたを済度するのです。このようにしたのです。あなたが得たものはとても貴重なものです。佛を修めるのは非常に厳粛なことであり、法輪を乱し、壊すことも許しません。もしあなたが他のものを混ぜて修めたら、我々は法輪を取り戻すしかないので、あなたにこの生命——高級生命を壊させるわけにはいかないのです。それなら、他のものを学んだ時、法輪はこんなに大きな威力があるのに、どうして構ってくれないのかと思う人がいるかもしれません。この宇宙の中に一つの理があり、何を求めるかは自分で決めることであり、自分自身が求めていけば、もし邪なものを求めていけば、邪なものがあらゆる機会を逃さず入ってくるのです。あなたが求めていなくても、無理やり入り込もうとします。求めていけば、すぐやってきて、一秒も経たないうちに来てしまうのです。法輪はなぜ手助けをしないのでしょうか？ あなたが求めているからです。ですから皆さんはくれぐれもこのことに注意して下さい。人が修煉するということはとてもとても厳粛なことです。

私が中国で功を伝えた時、多くの人には高い次元まで天目が開いたのです。しかし、天目が開いても修煉しやすくなるというわけではなく、高くて大きな神仙が見え、別の空間の生命体ですので、大きくなることができ、黄色の衣服を着ています。高くて大きいので、人類は大きな神通を持っていると誤ってしまいます。「私はあなたを弟子として受け入れますから、私について学びましょう」とあなたに言います。人の心が動じ、すぐ彼について学びに行ったら、もうおしまいです。彼はいくら高くても、三界を出ていないので、何者でもありません。彼はただこの空間にいないだけで、身体を変化させることができるだけです。ですから皆さんはぜひこれらのことに気をつけてください。またあなたを邪魔しにくる魔があります。「私について学びなさい。何かを教えますよ」と言うのです。特に他の功を練る人は、自発功が出やすく、そこに座れば、手印もとてもきれいに結べるようですが、あなたに教えますが、魔もこのことができるのです。誰が与えてくれたのか分からないので、彼に従って練習すると、あなたの身体に何かを加えれば、あなたの身体を乱してしまうのです。一部の人には、これを学んだり、あれを学んだりしたために、身体の中はめちゃくちゃで、何でもあります。もうまったく修煉できなくなるのです。我々は縁を重んじますが、私に会うことができることも、あなたの縁なのです。真に修めたいなら、徹底的に浄化してあげます。良いものを残し、悪いものを除き、身体を整え、浄化させ、乳白体の状態に達してから初めて、真に功が出て次元を高めることができるのです。

**弟子:**先生はたくさんの法身があって人の修煉を指導することができます。しかし我々はオーストラリアにおり、誰が我々を指導してくれるのでしょうか？ 誰を師とするのでしょうか？

**師:**彼は一つのとても重要な問題を出しました。皆さんもご存知のように、一人の人が修煉することは非常に厳粛なことです。人は生生世世に業力があり、前世に良くないことをしたら、別の空間に敵と債権者がいるかもしれません。あなたが修煉することを知ったら、復讐してくるかもしれませんので、修煉して間もない頃の人には生命の危険に直面するのです。ですから私が言ったように、もし師父がいなければ、あなたが修煉することは全く不可能で、絶対に修煉できないのです。師父はあなたを見守って、保護して初めて、あなたは修煉できるのです。あなたにいかなる大きな問題をも起こさせないことによって初めて、あなたは修煉できるのです。修煉者は以前世界各地にいましたが、中国は割合多かったのです。多くの修道の人は弟子を選び、後には道教が成立したほど弟子がとても多いのですが、真に伝えるのは一人だけです。こうして初めて弟子に問題がないように保証できるのです。一人しか見守れないのです。なぜならば、道家は衆生を済度する願望を持っていないからなのです。

私はなぜこんなに多くの人を済度することができるのでしょうか？ 中国では現在千万もの人が学んでおり、海外の人を加えればさらに多いのです。なぜ皆さんに問題がなかったのでしょうか？ 在席の皆さんの中にも自動車事故に遭った人はいますが、自動車は壊れましたが、彼には確かに何も問題はなく、痛みもなく、怖がってもおらず、どこも怪我をしていなかったのです。なぜこうなり得るのでしょうか？ つまり債権者があなたに債務の返済を求めに来たのです。しかし我々はあなたを真の危険にさらしてはいけないのです。ただし、この借りはやはり返さなければならぬので、もし師父の保護がなければ、それですぐ死んでしまうのです。死んだらどうやって修煉するのでしょうか？ 私には無数の法身があり、私と同じような姿をしています。法身は別の空間にあって、当然大きく変わったり小さくなったりすることができます。とても大きく変われますし、とても小さくもなれます。彼の智慧は完全に開いていますので、佛のような法力があります。主体は私の処にありますが、彼ら自身で独立して事を成し遂げる能力があります。彼らはあなたを見守り、保護し、功を演化してあげるといったようなことができるのです。実は彼は即ち私の智慧の化身であるため、あなたを保護できるのです。私はオーストラリアにはいませんが、大法をすでにあなた達に伝えましたから、法を師とすべきです。

**弟子:**法身は我々の修煉を指導し我々を守ることができますか？

**師：**一人の修煉者がトラブルに遇う時、私の法身はこれらのものを処理し、出現させないようにしたり、あなたにヒントを与えたりすることもできます。あなたがそれを悟れないとき、しかし修煉がよくできていれば、あなたの目の前に現れ、何かを教え、あるいは声を聴かせるかもしれません。まだ一定のレベルまで修めていなければ、あなたに見せるはずはないのですが、声で知らせることができます。多くの場合は、あなたが寝ている時にそれを見せてくれます。こうしてあなたは夢を見ているようで、真か偽か、また悟りの問題が存在します。ですから多くの場合は夢の中で見ることができます。もしあなたの定力がとても高ければ、座禅している時でも見るすることができます。しかしいつも私を見たいと思うなら、それも一種の求めることであり、執着なのです。ですからあなたに見せてはいけません。何もこだわらなくなり、将来修めさえすれば、必ず見ることはできるのです。

**弟子：**師父は守ってくださいますが、私の業力はとても大きいので、どうやって守ってくださるのでしょうか？

**師：**ここにも一つの重要な問題が提出されました。今日の人類社会は、みな業に業を積み重ねてここまで至ったので、業力はすでに相当大きくなっています。人間だけにこんなに大きな業力があるのではなく、人間は転生できるので、動物、物質、植物、高いレベルの空間の生物、低いレベルの空間の生物にも転生します。六道で輪廻するのですから、全て転生できるのです。人は徳と業力を持って輪廻しています。現在の人は徳が少なく、業力が大きいのです。見たところ、人だけに業力があるのではなく、セメント、土までも業力があります。過去には皆ご存知の通り、中国では、農民は畑で野良仕事をする時、手にもし怪我をしたら、土を取って付けばすぐ治り、土を少々付けるだけでよくなるのです。現在、敢えてこのように土に触れようとする人がいるのでしょうか？ 触れなくても破傷風に罹ってしまいます！ 至るところに業力があります。ものに業力があり、植物に業力があり、動物や人や至るところに業力があるので、高いレベルの空間から見れば、人類社会は黒い煙に覆われているようです。なぜ伝染病があるのでしょうか？ とても深刻な伝染病は、とりも直さずその黒い煙で密度のとても大きな業力の塊であり、あちこちに流れているのです。流れてきたところで、伝染病が出現するのです。現在、人類の業力はこんなに大きいのですが、どうすればよいのでしょうか？ 私は皆さんに言うておきますが、あなたが修煉したいと思っても、つまり私が先程言ったように、借りがある何人かの命を償ってから、修めようとするなら、恐らく環境がすでに変化し、私に会うこともできなくなってしまうのです。

それではどうしたらよいのでしょうか？ この宇宙の人は人間になるためではなく、修煉して元に戻る、つまり真にその人が生まれたところに帰るためです。私は常人社会におり、常人の情から離れることができず、修煉したら、私の妻や子供、親兄弟をどうすればいいのでしょうか？ それなら、私は生きていてもつまらないと言う人がいるかもしれませんが、それは常人の角度からの認識で、現在の基礎の上での考えです。向上して新しい基礎において、あるいは次元を高めたらこのような考えはなくなるのです。別の境地にいればこのように考えないのです。ここで一つの理を教えましょう。誰があなたの本当の身内なのでしょうか？ ここで皆さんの家庭関係に干渉しようとするのではなく、人は六道輪廻で転生する時、今世は人間であっても、来世には動物となり植物となり、一世さらに一世と転生します。繰り返し転生する中であなたにはどれほどの両親、どれほどの妻子、どれほどの兄弟姉妹がいたのでしょうか？ あなたの長い生命の過程の中では、数え切れないほど多いのです。それには人間もいれば、人間ではないものもあります。どれが本当の身内なのでしょうか。人はあまりにも迷っています！ あなたの本当の親は宇宙であなたが生まれた処におり、そこだけにあなたの親がいるのです。生命は二種類の由来があります。一つは歴大な物質の運動によって生まれた生命であり、もう一つは宇宙の物質の運動によって生まれた有形の生命です。人が妊娠するように、生命を生みます。このような生命なら、彼には親がいます。ですからあなたの本当の親は、そこであなたを見ていて、あなたが帰るのを待ち望んでいるのに、あなたは帰らず、ここに迷ってしまい、また身内が全部ここにいると思ってしまうのです。

人が人間になることは目的ではなく、返本帰真こそ目的なのです。一人の人にもし佛を修めるといふ一念が生じたら、修煉する機縁がなくても、佛を修めるといふ善の種を蒔いたのです。なぜこう言えるのでしょうか？ つまり彼に生じたこの一念は大変貴重なのです！ 人はこれほどの苦しみと迷いの中にも、まだ元に戻る気持ち、佛を修め善に向かう心があるからです。もしあなたが修煉したいならば、皆あなたを助け、方法を考へてあなたの為の便宜を図ってあげるのであります。人にこの一念が生じると、十方世界を震わせ、黄金のように光り、誰にでも見えるのです。人が修煉したいと思えば、このようになるのです。しかし、こんなに重い業力を持っているので、どうすればいいのでしょうか？ 何らかの方法で業を消してあげます。業は無条件に消してはならず、全部消してあげてもいけません。他の人の場合、どこまでこれをしてあげられるのでしょうか？ 私はそれに関心がないのですが、佛教では、一世で成就できず、何回も輪廻して初めて成就できるといいます。つまりそんなに多くの業は一度になくすことができないということです。しかし、もしあなたが真に修めたければ、我々は何らかの方法で今生であなたに成就させ、今生で圓滿成就させます。もしかなり年をとってれば、あるいは定められた寿命がもう非常に短くなって間に合わない場合、

法輪を持ってこの世を去って転生できます。生まれ変わると法輪を持って縁を続けることができるのです。

一人の人が正法を修めていれば、あなたが修煉でき、また耐えられるまで業力を消してあげます。その程度まで消してあげます。全部消してはいけません。まったく償わないわけにはいきません。では、どのように償うのでしょうか？ それをあなたの修煉の過程に置きます。全てはあなた自身の業力ですので、修煉していく中で、向上する必要がある各次元に置きます。それは心性を高めるための関や難として現れてきます。次元を高めなければならぬ時になると、何らかの厄介なことに出くわし、あるいは身体の具合が悪くなります。この全てはあなたに悟らせるためです。この時には自分を修煉者として扱うことができるかどうか、あるいは常人のようにこれらの出来事に対処しているのか、放下して淡々として見ることができるかどうかを試しています。関や難を向上する良い機会と見なして、放下できれば、この関を乗り越えることができるのです。一部の修煉者は関がとても大きいと思いますが、実はそれほど大きくないのです。それが大きいと思えば思うほど、関は大きくなり、あなたは小さくなるのです。もし気にせず、気かけなければ、緑の山さえあれば、薪がなくなる心配はなく、師がいて、法もあるのに、何を恐れるのですか？ 無視すればよいのです！ 放下すれば、関は小さくなり、あなたは変って大きくなり、一歩だけで乗り越えてしまいます。その難は何程のものでもありません。必ずそうなるのです。乗り越えられないのは実は執着心を取り除くことができず、あるいは法を信じないからです。多くの場合は、この心を放下できず、あるいはあの心を放下できず、何かの心を放下できないから、関を乗り越えられないのです。彼が人心から抜け出すことができなければ、乗り越えられないのです。

**弟子：**一つの質問があります。私は長い間法輪大法を修煉してきて、むさぼるように先生の本を読み、先生のビデオを見ています。しかし一つ分からない話があります。つまり先生のおっしゃった「法輪は皆さん自分で修煉してもできるものではありません。先生が自ら一つの法輪を植えてあげます」という話です。それで、私は中国に行って先生に一つの法輪をいただきたいと思っています。これが一つの質問です。もう一つの質問は、仮に法輪があるとしても、どのように自分に法輪があると証明できるのでしょうか？ この二つの質問です。

**師：**多くの人はこのようなことについて心配しています。この法を学びたいのですが、先生の講習会に参加したこともないし、先生にお目にかかったこともないのに、法輪を持つことが出来るのでしょうか？ 何も感じていない人は、先生は見守ってくれていないのではありませんか？ 多くの人はこのような疑問があります。実は私はすで

に本の中に書いていますが、皆さんは法輪を持つことができます。私は衆生を済度しに来ているので、あなたに責任を負わなければ、本やビデオを見るだけでは皆さんに危険をもたらすこととなります。ですから私はあなたの面倒を見なければならぬのです。あなたが真に修めていても見守ってあげなければ、私は人に害を加え、人を死地に置くことになり、私は罰に遭うはずです。ですから、私はそのようなことをしてはいけません。私はすでにこのようにした以上、皆さんに責任を持たなければならないのです。多くの根基のかなり良い人はこの本の文字一つ一つも法輪であるということが見えます。空間が異なっているので、さらに深い空間を見ていけば、全ての字が私の法身であり、佛の形象であり、字の部首も一人の佛なのです。皆さん考えて見て下さい。一人の佛はすでにかなり大きな威力がありますが、この本を読んでいる時、なぜ病気が治ったのでしょうか？ どうして目の良くない人はこの本を読めば読むほど字が大きくなり、目の疲れも感じなくなるのでしょうか？ なぜこの本を読むと奇跡的な変化が起こるのでしょうか？ 本の中の文字は法によって構成されており、文字自体はあなたのために何でもしてあげられるし、あなたに法輪を植えつけることができるのです。さらに私の法身も見守ってあげています。このすべての事は彼らにはできるのです。したがって、私本人に会わなくても得られるのです。

感じるかどうかについては、敏感な人であれば、下腹部に回っていると感じられますが、一カ所だけではなく、全身のどこでも回っていると感じます。ここに在席している人の中に間違っただ話をした人がいますが、今後注意してください。その人は法輪大法は九つの法輪を煉ると言いました。皆さんに教えますが、真に与えた法輪は一つだけです。この一つの法輪だけですすでに限りない威力を持っています。この法輪は無限に分身できるのです。修煉の初期段階において、体を浄化してあげるために、あなたの体外に何百あるかも分からないほどの法輪を植えてあげました。どこでも回っています。ここでも回っており、そこでも回っており、いや全身で回っていると話した人がいます。至るところで回っています。体を浄化し、同化してあげなければならぬため、私はこの功の特性を用いて調整してあげています。ですから、至る所で法輪が回っていると感じられ、数え切れないほど多くの法輪があると感じるのです。九つあると感じたから、それで九つあると言ったかもしれません。私はかなり多くの体外にある法輪でああなたの身体を調整してあげますが、敏感な人もいれば、そうではない人もいます。敏感ではない者は感じられませんが、敏感な者には感じられます。感じられても、感じられなくても、これは全て初期段階のことです。感じられる人は法輪が体に順応して、身体の一部になった時、感じなくなるのです。心臓が動いていますが、普段その動きを感じられるのでしょうか？ 手で触れば分かります。胃は蠕動していますが、それが動いていると感じられるのでしょうか？ 血液は流れていますが、あなたには感じられるのでしょうか？ 身体の一部となった時に感じなくなります。

初期段階に感じられない時もあり、初期段階に感じない人はかなりいます。しかしその後修煉していくと、数多くの感覚があるはずで、修煉しさえすれば、見守ってあげます。

最も顕著な変化はあなたの身体が速やかに浄化されることです。中国大陸で多くの人が知っていますが、法輪大法はとても不思議です！ 修煉したら病気がすぐ治ります。なぜでしょうか？ 多くの人は病気治療のことを求めず、大法が素晴らしいと思って修煉を始めたのですが、病気が治りました。しかし往々にして効果が良くない人もいます。なぜ病気が治らないのでしょうか？ 法輪大法が病気を治すことができる聞き、病気治療の目的で修煉を始めたので、病気を取り除くことができないのです。「求めずとも自ずと得る」ということです。病気を治療したいというのも求めることなのです。人の身体は業を返すべく、病気があるはずで、修煉したいという心だけあって、病気治療の心を取り除かなければならないのです。病気治療のことを考えず、このようなことに構わず、ただ煉功すれば、何でも得られます。しかし病気を治したい心があれば、何も得られないのです。これまで我々はずっと精神病患者と重病患者が講習会に参加することを認めていませんでした。つまり、重病患者にいかにもその心を放下させようとしても、彼は放下できません。生命がもうすぐ終わるのに、病気を考えずにいられるのでしょうか？ 病気のことばかりで夜も眠れない有様ですから、放下するようと言っても放下できないのです。時に口では放下すると言いますが、頭の中ではやはりとても強く考えています。ですから我々は何もできません。なぜできないのでしょうか？ 正法を伝えて人を濟度するには要求があり、とても厳しい要求なので、そうでなければ我々は邪法を伝えることになるのです。あなたはこの一念を変えなければなりません。そこで初めて何かをしてあげられるのです。その一念を変えなければ、我々は何もできません。その一念を変えれば、あなたは常人ではなくなり、この一念を変えられなければ、あなたは即ち常人です。その差はここにあるのです。ですから求めずとも自ずと得るということにほかなりません。一部の人は何の考えも持たずに来て、とても良いと思って、修煉してみました。人々が皆気功を修煉しているのを見て、彼も訳が分からずに修煉しに来ましたが、そのために却って全てうまくいったのです。もちろん我々は一度に人々にかかなり高い要求をするわけではなく、一つの認識の過程があっても、それはかまわないのですが、いかなるものであっても求める心を抱いて修煉に来てはいけません。

**弟子：**先生、申し訳ございませんが、私は三つの質問があります。一つは『轉法輪』を読みましたが、中に奇門功法について書いてあり、それを修煉して功のもぎ取りはしないのですが、一部の功は修煉して功の八割をもぎ取ってその世界を充実させるのですが、それなら我々が修煉しているこの大法でももぎ取るのでしょうか？

**師：**人は常人の中で修煉し、人が将来佛になる為に備えるべき一切のものを全て煉り出さなければならないからです。皆さんもご存知の通り、佛は欲しいものを全部手に入れることができるのです。しかも神通が大きく、限りない福があるのです。それはどこからきたのでしょうか？ どのぐらい苦しみを嘗めたかによって、それに相応する福を得るのです。功が相当高い次元に達してから初めて佛になることができるのです。これは昔修煉界でとても高い次元の修煉者の間で話すことで、常人の中で話されたことはありません。一人の修煉者は、確実に高い次元まで修めて初めて、圓滿成就することができるのです。なぜでしょうか？ 功だけあっても上がれません。必要なものがなければ、何の福もなければ、それではいけません。修煉していく過程で、それを全部修めて出さなければならないのです。修煉の過程で嘗めた苦は、すなわちあなたの威徳です。苦しみを嘗めれば、功が伸び、心性が向上すれば功が伸びるのです。ですから将来とても高い次元まで修煉したら、また功の八割をもぎ取ってあなたの果位に限りない福分を圓滿させ、あなたの世界を充実させます。それはあなたが苦しみに耐えて修めて得たものです。修めて得た心性の基準までもぎ取り、あなたの世界を充実させて初めて、あなたの福分となるのです。それはあなたが苦しみに耐えて得たものです。残ったその二割は、それこそあなたの果位なのです。菩薩の基準に達したら即ち菩薩となり、佛の基準に達したら佛となり、羅漢の基準に達したら羅漢となり、さらに高い境地に達したら即ちさらに大きな佛となるのです。奇門功法の修煉は割合複雑ですが、自分自身の功で福德を圓滿させることも必要なのです。

**弟子：**私の聞きたい第二の質問は、私の心性はあまり高くないので、人に罵られたり、いじめられたりしたら、心の中で怒りがおさまりません。先生の言われたことによれば、人々があなたを殴り、罵り、いじめる時、あなたに徳を与えているので、心の中で怒ってはいけないとあります。もし怒ったら功が伸びないのですか？

**師：**一人の修煉者として、常人に対して怒った時、すでに常人と同じになってしまったのです。怒った時あなたは外へ向かって押し出そうとしています。ただ押し戻していません。押し戻せなかったのは、あなたが失ったからです。相手と同じように対処すればそれを押し戻してしまうことになります。ある人は次のように考えるかもしれません。彼は私をいじめて、私の金をたくさん騙し取ったのに、私は喜んで彼に感謝しなければならず、私を殴った上に罵ったのに、私は罵り返してはいけなばかりか、彼に感謝しなければなりません。これなら、人々に阿Qではないか、弱虫ではないかと言われるのではありませんか？ 違います。皆さん考えてみてください。あなたにそれほどの高い心性がなければ、これはできないことなのです。それは修煉者の強い意志の表れであり、常人にはできるものではありません。それほどの強靱な

意志がなければできないことで、弱虫ではありません。もちろんあなたは喜ぶべきです。皆さん考えてみてください。彼がもしあなたをいじめなければ、あなたは一塊の徳を得られるはずはなく、一塊の徳を多く得たら、一塊の功が伸びます。彼にいじめられた時、あなた自身の業力も消えているのです！ あなたは業力を持ったまま佛になれるのでしょうか？ 業力をきれいに消さなければなりません。彼はあなたをいじめてあなたに徳を与え、あなたの業も消えるのです。あなたは彼と同じように対処せず、心の中はとても平静で、あなたの心性基準が高くなります。頭上に心性の尺度があって、尺度が高ければ高いほど、功は高くなります。あなたは心性も功も高くなり、業も徳に転化し、さらに彼はあなたに徳を与えました。あなたは一举四得です。それでは彼に感謝すべきではないのですか？ 本当に心から彼に感謝すべきです。私が先程言ったように、人類社会で思っている善し悪しの理は反対になっているのです。高い次元から見れば、人の執着しているものは全て良くないものです。

**弟子：**三番目の質問は本の中に書かれている殺生のことです。殺生は一種のかなり大きな罪ですが、自殺も罪となりますか？

**師：**罪になります。現在の人類社会は悪くなり、奇奇怪怪なことが現われています。安楽死などと言って、注射で人を死なせます。皆さんも知っていますが、なぜ注射で人を死なせるのでしょうか？ 彼が苦しんでいると考えているからです。しかしその苦で業を消していると我々は考えています。彼が来世に転生した時、身が軽くなって、業力はなく、かなりの福が得られます。苦の中で業を消している時、当然辛いのです。しかし、業を消さずに彼を殺してしまうことは殺人ではないでしょうか？ 彼は業力を持ったまま死んでしまえば、来世でまた業を返すことになるのです。それではどちらが正しいと思いますか？ 自殺にはもう一つの罪があります。人の生命は按排されていたものなのに、あなたは神が按排した全体の順序を破壊したのです。社会に果たす義務を通じて、人と人との関係を繋いでいます。死んだら、神の按排した全体の順序を乱したのではないですか？ あなたがそれを乱したら神も許さないのです。ですから自殺は罪なのです。

**弟子：**佛はやりたいことが何でもできますが、佛は心を清らかに保ち無欲なのではないですか？ 彼は何を楽しもうと思うのですか？

**師：**佛は食事もせず、人の身体もないと言う人がいます。この話を聴いたら、人々は佛が皆このようであると思ってしまいます。言っておきますが、修煉界の人の話を、常人の考えで認識してはいけません。佛が人の身体を持っていないということは、分子という層の粒子の物質で構成した汚い身体がないということです。彼の身体の最も

粗い粒子は、表面は原子で、最もミクロな粒子は宇宙の中のもっとミクロの物質なのです。物質はよりミクロであればあるほど、その放射性エネルギーも大きくなり、佛光が普く照らすのです。ある人は佛がご飯を食べないと言いました。佛は人間のご飯は食べません。佛は佛の次元の物質を食べます。「飯」という人類の言葉も当てはまりません。ですからあなたは佛の境地の言葉の意味や、佛のことも理解できません。人には人の考え方しかないのです。

佛になったら、なんと退屈なのでしょう。何もなく、まるで丸太がそこに坐っているようだという常人がいます。皆さんに教えますが、佛は自分の天国世界の法王なのです。如来と呼ばれるのは彼の心性の基準の次元の体現を指しています。彼は実際には自分の天国の法王なのです。彼はその世界にいる無数の衆生を管理しています。もちろん常人のように法律で強制的に管理するのではなく、完全に慈悲と善の心で管理しており、中にいる誰もがその境地の基準に達しているのです。限りなく美しいのです。常人の情はありませんが、慈悲があり、さらに境地の高いもの、純潔なものを持っています。常人の持っているものは一切持っていません。さらに高い境界にふさわしい素晴らしいものを備えています。これこそ高級生命ですが、まださらに高級、さらに高級、さらに高級な生命があります。何も面白くないというなら死ねばよいのです。それはさらに素晴らしいもので、その世界に行って初めて何が幸福であるかが分かります。さらに素晴らしいのですが、常人のものを放棄し、取り除かなければ、その境地に行けないのです。

**弟子：**なぜ奇門功法はその功をもぎ取らないのですか？

**師：**奇門功法の功をもぎ取らないということ、誰が言ったのですか？ 皆修めて得た功を用いて彼らの果位を圓滿させなければなりません。奇門修煉は一種類だけではありません。さまざまな非常に特殊な修煉法があります。修煉する過程で、修煉しながらその果位を圓滿させている場合もあります。払った代価は同じです。この場合、功が上へ伸びるばかりではないので、もぎ取りません。もぎ取られる人は、その功が速く伸びますが、もぎ取られない人は、修めながら福德を圓滿させているので、その功の伸びはとても遅いのです。払った代価は同じです。

**弟子：**二つの質問があります。一つは、私が始めて座禅をした時、師父の法身が私の側に、私の左側にいらっしゃるのが見えました。しかし黒い服を着て、満面に微笑みをたたえておられました。私は後で資料に書いてあるのを読みました。私には初めて見えたので、今日ご教示をいただきたいのです。録画の色ではないのです。

**師：**これも異なる空間には色の差があるからです。例えば、道教の好きな色は何ですか？ 紫色です。ですから道教は紫気東来と言い、紫色は最高レベルの色だと思っています。佛家は黄色、黄金色を好みますが、それは同じ色です。この空間においては紫ですが、あの空間においては黄金色になります。我々の空間で見た黒いものは、別の空間で見れば白いものなのです。この空間で見た真っ白なものは、別の空間で見れば、真っ黒なものになります。この空間の緑は別の空間で赤になります。全ての色はいずれもこのような異なる空間の異なる表れ方があるのです。あなたがちょうどそのような状態でいれば、そのような色が見えるのです。皆さんはこのことに気をつけてください。時に魔の妨害はとても強いのです。多くの場合、私の法身は佛の袈裟を着ており、くるくると巻いた青い髪で、明るい青色です。時には、極めて特殊な場合に私のこのような衣服を着た法身が見えるのですが、極めて極めて特殊で、めったにないのです。ですから皆さんはこのことをはっきりわきまえてください。見えたものがもし私であれば、心から彼は私であると感じ、とても確信がありますが、もし私でなければ、心に疑問を感じるはずです。

**弟子：**私は法を学んですでに二カ月经ちました。この二カ月に私は数十年の病気がすべてなくなったと感じました。私が大法を学ぶ目的は私の業力を除去するためです。この二カ月は、私は本当にとっても気持ち良く、薬を全く飲みませんでした。これが一つです。もう一つは、座禅の時に見たのが法輪なのかどうか師父にお伺いしたいのです。私は螺旋式に回転するものが見えました。しかし、色は土の色で、泥土の色と同じで、その回転は大変奥妙ですが、中の構造は見えませんでした。

**師：**法輪の中の符号を除いて、地色が変わることがあります。赤、橙、黄、緑、青、藍、紫、有色、無色、それが回転しているので、法輪は皆このような色とは限りません。また法輪が皆さんの身体を浄化する時、その回転はとても速く、扇風機の羽根、竜巻のように見えます。回転がとても遅い時、中の構造をはっきり見ることはできません。速く回転しているときは容易には見えません。初期段階に身体を調整するとき、速く回るべきか遅く回るべきか、どう回るべきか法輪自身が知っていますので、これは大丈夫で、すべて正常です。

**弟子：**大蓮花手印を結んでもいいのですか？

**師：**大蓮花手印は一つの定印で、つまり固定した印で、これが大蓮花手印です（手振りをする）。我々が煉功する時に結ぶ必要はありません。家にある佛像を師父に開眼していただく時、あるいは道家の老子や原始天尊や他の佛像の場合、私の本を持てば一番良いのです。中に写真があるではありませんか？ あなたは私に言うように、「先

生、開眼をお願いいたします」と言って、大蓮花印を結んでこの本を持てば、三秒間で終わります。私の法身は一人の佛像と同じような神の法身を招いて来ます。もし阿彌陀佛の像を開眼したいなら、私の法身は一人の阿彌陀佛の法身を招いてその佛像に来てもらいます。これが本当の開眼と言います。現在、宗教の中で着実に修めていない和尚や、多くの偽気功師は開眼できません。彼は佛に来てもらうほどの威徳を持っていません。それは佛であって、誰かが呼ぶと来るものではありません。もちろん鏡で佛像を照らすことを開眼と言うものもいるし、さらに佛像の目に辰砂を付けるものもあります。目を真っ赤にすることを彼は開眼だと称しますが、これらは全てでたらめです！

**弟子：**人間は異なる天国から落ちて来たもので、異なる次元から落ちて来たものだと先程おっしゃいましたが、それなら道理から言えば、自然にその人は彼の元の天国に帰るべきです。しかし人間という次元では、自分が元いた天国を知らないのです。それでは修める時、彼は違った方法を選択したかもしれません。例えば彼は縁があって法輪大法を学ぶようになったかもしれません。

**師：**あなたは自分の元の世界、あなたの生命が生じたその所に帰りたいのですが、願望は良いのです。あなたは現在、まずどのように帰るのか、どのように修めて帰るのかということを決しなければなりません。これが最も肝要なことです。他に選ぶ余地はありません。全くないのです。佛が全部そこに並んで座り、あなたはどれが欲しいのか、それをあなたにあげるといようなことではありません。もしあなたが修めて向上し、本当にとっても高く修めて、元の位置に帰ることができれば、あなたはどの世界にいても、他の世界にいる親族に会いに行ったり、見て回ったりすることができます。あなたがどの世界にいても構いません。あなたはシドニーに住んでいても、ブリスベンに住んでいてもどちらでも構いません。

**弟子：**東南アジア地区で天道というものがかなり広範囲に伝わっていますが、これはどういうことでしょうか？

**師：**皆さんに教えますが、現在は末劫の時期で、釈迦牟尼佛は末法の時期に、万魔が世に出ると言っていました。釈迦牟尼佛がこの世にいた時、魔は「私は今あなたの法を乱すことができませんが、あなたの法が末法の時期に入る時、私は私の弟子、孫弟子達を出家させてあなたの寺に行かせます。あなたがどうするかを見てください！」と言いました。釈迦牟尼佛はその時すぐ涙を流しました。釈迦牟尼佛にはもちろんどうしようもありません。末法に至ったら、乱れてしまいます。彼の言った末法の時期は人間だけではなく、寺だけでもなく、人類社会は至るところに人類を破壊すること

が存在し、そのような人が存在しています。邪教は縦横無尽です！ 表面上でそれらも人に善に向かうことを教えますが、本当はこのためにやっているのではないのです。それは名のためになければ金のためです。あるいは一種の黒い勢力のために、全てこれです。彼らが何を追求しているのかはお分かりでしょう！ 佛法を伝え出したのは人を済度するためです！ もしお金を儲けるために利用すれば、その罪はこの上なく重いものです。もちろん魔はこのことを気にしないのです。彼は宗教の看板を掲げて、あるいは人を善に向かわせる看板を掲げて人類を破壊し、人の心を乱し、心の法を破壊するのです。これは最もあくどいのです。ですから私は考えてはいますが、一部のことは話したくありません。正と邪はあなたが弁別できるはずですし、自分で弁別したほうがよいのです。誰が邪で、誰が邪ではないかを私は言いたくないのです。

ただし私があなたに教えるのは、一人の人が常人社会に来て人を済度する事はたいへんなことで、全宇宙の神にも同意してもらわなければいけないことです。なぜならば各方面に関わり、人類社会の全ての上下に対応している民族に及び、数多くの問題に及ぶからです。誰かが急に思いついてやりたくなかったからと言ってできることではないのです。イエスがなぜ十字架にかけられたかを私は知っています。釈迦牟尼佛はなぜ涅槃の道を歩んだのでしょうか？！ 正法を伝えることは容易ではなく、邪法を伝えるなら却って誰も構わないのです。誰も構わないということでもなく、往々にして正法を伝える時、邪法が多くなり、どの法門に入るかはあなたが決めることです。もし皆同じ法門であれば、伝えるのは全て正法で、世間に邪法がなく、全部処理されたとすると、人はあまりにも修めやすくなるのです。この法はどのように得たのでしょうか。誰もがあなたのものを修め、その一門しかなければ、弟子がその法に対して確固たる心を持っているか否かをどう試練するのでしょうか？ ですから往々にして正法を伝える時、邪法も伝え、人がどの法門に入るかを見るのです。人の悟性を量るということは、あなたの修煉過程中に「さあ、私についてこれを練りましょう、私についてあれを練りましょう、私の今やっている功法はとてもいいものです」など、あなたに声をかける人がいます。あなたを引っ張り、あなたを試すのです。このことは絶対にあるはずです。あなたの修煉過程中に、終始このような現象があり、あなたを引っ張って行きます。なぜ我々はこれらの事を止めようとしないのでしょうか？ 法身は何でも解決できるのです。ではなぜこれを放置しておくのでしょうか？ つまり魔を利用して人の心を試して、あなたが根本からこの法に対して確固たる心を持っているか否かを見るからです。佛道を修めることはこれほど厳粛なことなのです。ですから、このような事が存在しています。

良し悪しについて私は全て話しました。正教でさえも現在、人を済度するのはとても難しく、邪教はなおさらです！ あの人はモデルのような身ごしらえをして人に持

ち上げられて、至るところで金をもらっていますが、人々はまだ彼女を信じています。人はとても愚かなものです！ 法を得ていない時はとても騙されやすいのです。

**弟子：** 思想業とはどういうことですか？

**師：** 人によっては脳の中に無意識のうちに良くない思想が生まれることがあります。我々は正法を修煉する者です。私は社会に対して責任を持ち、人類に対して責任を負い、人に責任を持つという原則に基づいてこの事を行っています。その人もこれが良いことだと知っていますが、頭の中では私を罵り、しかも信じてはいけない、これはすべて偽りだと彼に教えます。なぜこのようなことがあるのでしょうか？ 人は彼自身の身体に存在する業力以外に彼にはまだ思想業力が存在しています。いかなる物体も生き物で、思想業も生き物です。あなたが修煉を始めようとするならば、あなたの思想を浄化し、これらの生生世世に生じた良くないもの、人を罵る思想や、形成した観念や、各種の業力を全部除去しなければならないのです。それを除去して初めて、あなたの本性が現れてくるのです。あなたは修煉を始めて、これらのものを消そうとし、これらの人を罵る思想概念を除去しようとするなら、これらのものが承知しません。それ自身が死ぬことを受け入れられるのでしょうか？ それはあなたの脳に「これは全て偽りだ、彼を罵れ、人を罵れ」と反応します。あなたが煉功すればするほどこれらのものはますます人を罵り、脳の中に人を罵る言葉、とても汚い言葉が生じるのです。実はあなたに教えましょう。これらのものはあなたではなく、業力で、思想業なのです。必ずそれを排斥して下さい。我々のこの功法はあなた本人を修めさせるものです。もし自分の意識をはっきりさせなければ、人を罵る言葉が出る時、心が揺れてしまうなら、あなた自分の主意識もそれについていってしまい、修煉をやめて、動揺してしまいます。そうすると、我々ももうあなたを構ってあげることはできません。我々が済度しているのはあなたですから、あなたが駄目になったら、我々も済度しなくなります。

このような状況は以前たくさんありました。中国で思想の中で激しく反応していた人がいました。罵りがとても激しく、彼は排斥しようとしても排斥できません。最後に彼は、先生に申し訳ありません！ 先生を罵ってしまい、私のこの業力はあまりにも大きいので、いっそのこと死んでしまおうと思い、ナイフを取って首を切ろうとしました。当然ながら、あなたはこれを試してはいけません。彼は切ろうとしても切れず、痛みもなく、血も出ません。彼は気が収まらず、輔導員のところに行き、頭の中でよく先生を罵っているのですが、どうしたら良いでしょうかと聞きました。この輔導員が事情を聞いた後に彼に向かって法を読むと、彼は心地よく感じました。その後私に聞きましたので、私は次のように教えました。実際はあなたの業力が罵っており、

あなたが罵っているのではありません。あなたはいかなる心理的な負担も持つ必要はありません。あなたが私を罵るのではなく、業力が罵っているからです。しかしあなたの主意識ははっきりしなければならず、それを排斥して、できるだけそれを排斥して、罵ることをやめさせるのです。それを排斥し、抑制すれば、私の法身は分かるのです。あなたが何をするかそれは全部知っています。それは罵る前にすでに分かっているのです。これもあなたに対する試練で、主意識が動揺するかどうかに対する試練なのです。動揺しなければ、しばらく経ったら私の法身はこの業を消してあげます。この種の思想業力は直接あなたの修煉を妨害し、あなたの悟性に影響していますので、それを消してあげるのです。この問題は皆さん覚えておいてください。こういった問題が出現したときには、わきまえておかなければいけないのです。

**弟子：**煉功について一つ質問があります。動作と心性との関係についてですが、動作の練習を強化すれば心性を高めることができますか？

**師：**直接の関係はありません。しかし動作も圓滿成就するための一つの肝要な部分で、それもとても重要なものです。我々のこの功は法が人を煉るので、あなたが煉功していなくても、寝ている間、仕事をしている間、食事している間も、法はいつもあなたを煉っています。二十四時間、絶えずあなたを煉っています。あなたの生きている間の煉功時間を短縮させ、できるだけ速くあなたを圓滿成就させます。先程言ったように、現世であなたを圓滿成就させます。こうしなければなりません。しかし、我々の煉功の動作は、実際は他の功法のように煉れば功が伸び、煉らなければ止まるというようなことではないのです。我々が煉功するのは私があなたに植え付けてあげた一切の機制、体内と体外の機制を強化しているのです。あなたはこれらの機制を強化しているのです。なぜ私はこの手の動き方が灌頂のような形式ではなく、発することでも、放すことでもなく、手のひらが身体に向かって動くのだと説いたのでしょうか？ なぜならば私はあなたの体外に気機を植え付けており、あなたが気機に従って動くと、煉功のときにあなたの手のエネルギーはとても大きいので、気機が強化され、つまりあなたは機制を強化しているのです。手を下腹部の前に重ねる時、丹田の機制を強化しており、手を伸ばす時に運動の機制を強化しています。ですから我々の煉功はあなたを長期に煉功させることができ、二十四時間止まらずこの機制を強化しており、煉功は圓滿成就の手段です。しかしそれは絶対的なものではなく、圓滿成就するための一種の補助的手段です。とは言っても煉功もとても重要なことです。この法門で修煉してでき上がったものが変異したものにならないように、あなたの持っている一式のものとあなたの動作とは直接関係があります。なぜならば我々にはまだ術類のもの、さらに生命を演化し、人を長生きさせるための命を修めるもの、機能を加持する等のものがあるので、動作は一定の役割を果たしているのです。修が先にあり、煉は後に

あります。つまり修が第一で、煉は二の次です。しかしあなたがこの法門で圓滿成就したいならば、修と煉のいずれも欠かせないものです。

**弟子：**私は煉功の時、どんな光景も見えず、白い光しか見えません。先生の姿を見たいと思ったら見えましたが、これは幻想ではないのでしょうか？

**師：**私は二つに分けて言いましょう。天目の見えない人は、さらに高い次元へ突破するというような要素が存在するかもしれません。悟性がとても高く、とても高いレベルまで修めることのできる人なら、彼に見せなければ、より速く修めることができるのです。なぜなら彼は苦の中に迷っており、迷いの中で悟っているからです。同様に苦を嘗めても、彼はより速く向上できるのです。それぞれ状況が違うので、高いレベルへと修めているのかもしれませんが。

もう一つは、あなたは見えないと言いましたが、実際にあなたはすでに見えたのです。あなたは知らないうちに白い光が体を照らしているのを見たのです。また、あなたは見ようと思った時に見えました。実際にあなたには本当に見えたのです。あなたはそれを幻覚だと思っていました。多くの人は見えた時それを想像したものだと思います。私は皆さんに教えますが、人の目が物を見る時、すでに慣れており、目で見たのだと思っています。しかし、あなたは考えたことがありますか。何かが見えたということは視神経を通じて脳に伝導して画像を映し出し、脳に反映したことによって何かの物体が見えたのです。あなたの目はただカメラのレンズのようなもので、それ自身が物を分析し、映し出すことはできません。脳が画像を映し出しているから、我々は天目を通じて見たものと人が想像したものも、皆脳に映し出されているのです。何を想像するかは脳の中で行っており、物が見えたのは脳に画像を映し出しているからです。これによって、見えたのにそれは想像だと思ってしまう人がいます。しかし同じではないのです。あなたが想像して見たものはそんなに実像のように見え、動くこともできず、固定された画面だけなのです。しかしあなたに本当に見えたものは動いているのです。このように徐々に見ていけば、だんだんと慣れてきて、時間が長くなったら、次第にあなたは本当に見えたと分かるようになり、しかももっとうまく使えるようになるかもしれません。

昔道家は弟子を訓練する時、わざと弟子に想像させます。この関係を知っているの、弟子の機能を訓練するのです。目の前にリンゴはありませんが、仮に目の前に一つのリンゴが置いてあると言い、師父はリンゴの様子を弟子に教えます。実はリンゴはありません。そのにおいを嗅がせ、そしてその様子が見えたと思わせさせます。このように弟子を訓練します。いずれも脳に画像が現れるので、人によってはこの問題を

はっきりと解釈できないのです。要するに、あなたが想像したものは動かないのですが、見えたものは動いているのです。

**弟子：**ある夜、夢を見て、とても恐ろしいものを見ましたが、私は先生を思いつかなかったのです。思いついたのは密教のものです。しかし私はとても敬虔に法輪大法を修めています。もし、いつか何かが起こって私が死んだら、元神までも要らなくなるのでしょうか？

**師：**あなたがあまり本を読んでいないからです。今大法を修煉していますが、密教のものがまだあなたの考えにあります。ですから、夢の中で思いついたのは密教であり、大法ではないのです。命にかかわる危険なことに遭ったら、どうしますかと私に聞く人がいますが、あなたの修煉と関係のないことは、あなたに遭遇させません。絶対に遭遇させません。あなたの修煉と関係のあることならば遭遇します。あなたが今日もし本当に生命を失ったら、いかなる法門もあなたを見守っておらず、全く修めていないことを意味しています。宗教では命で償うことを主張しており、一生で圓滿成就まで修めることができ、命で償ってから、来世続けて修煉すると説いています。このように考えています。しかし我々の法門はこのようなことを言いません。我々はあなたにこれらの問題に遭遇させないと説いています。真に私の弟子であれば、絶対にあなたを生命の危険に遭わせないのです。

**弟子：**私は当時夢だと知らなかったのです。

**師：**あなたはその時密教を練習していましたが、本当の修煉もしていませんので、当然効果もなく、誰も見守ってくれなかったのです。地面にお金があるのを見て、それを拾ってポケットに入れた夢を見た、と言う人がいますが、実はこれらの夢は全て人に対する試練なのです。あなたの心性が安定しているかどうかを見ているのです。昼間はしっかりしていますが、夢の中だと、駄目になるという修煉者がいます。これは彼の思想の深層ではまだしっかりしていないので、夢の中でしっかりしているかどうかを試練しています。ですからこの問題とぶつかるのです。このような問題とぶつかって正しく対処できなくても落ち込まずに、この問題を重視して正しく行動するように心がければ、将来は良くなります。

**弟子：**李先生は国内で講習会を開いた時、学習者に法輪をくださいました。今日私は先生の講義を聞きましたが、我々にも法輪をくださったのでしょうか？ またもう一つの質問があります。精神異常の人の修煉を断りますが、脳に軽い病気のある者なら何か方法があるのでしょうか？

師：まず一番目の質問について話します。私が言ったように、この本の中の文字一つ一つに私の法身があり、どの文字も私の法身の形象なのです。どの文字も佛の形象です。私には無数の法身があり、私の法身は数字では数え切れません。皆さんもご存知の通り、釈迦牟尼佛も説いたことがあるように、阿弥陀佛は二百万の法身があると言われました。私の法身の多さは数字では数え切れません。どんなに多くの人でも私は面倒を見てあげることができます。全人類でも私は面倒を見られます。もちろん修煉者だけに対してこのようなことをします。修煉しない人や常人社会のことには関与しません。ですから、あなたに修煉しようとする一念が出ると、私の法身にすぐ分かるのです。もう一つの問題があります。私の現在のこの身体は常人の肉体で、これくらいの大ささしか見えませんが、しかし一つ空間を変えれば、私の身体は今の私よりずっと高いのです。各空間には、私の身体は空間ごとに高くなり、大きくなり、大きくなっています。私の最大の身体は、それは言葉では言い表しようのないほど大きいのです。多くの学習者は、一瞬私のとても大きな身体を見ましたが、彼は「先生、私はあなたの足指の下にいて、先生の足指の上が見えませんが」と言いました。ですからこれほど大きな身体では、考えてみて下さい、全地球もここにいますので、あなたがどこにいても面倒を見てあげることができます。あの法輪は、私があなたの傍にいる時しか植えつけられないのでしょうか？ 私はあなたの傍にいなくても同様にしてあげられるのです。私があなたの傍にいなくても、実はあなたの傍にいるのです。

二番目の質問は、精神分裂病に関することですが、軽かろうと重かろうと、我々は明確に規定しており、その人に煉功させるべきではないと主張しています。我々のこの功法は他の功法と違い、我々は本人を済度するだけで、本人を済度することができなければ、ほかの誰にも与えないのです。我々の功は本人の身体に植え付けており、あなたの主元神を済度するだけです。あなた自身を済度するのです。歴史上従来このような事はありませんでした。歴史上密教であろうと、他の宗教であろうと、いずれも副元神を済度していたのです。ここで私は千古の謎を説きました。この謎を示した当時、かなり大きな抵抗を受けました。しかし将来、世界が全部良くなった後、多くの佛は新たに世に出て人を済度するのです。私だけでなく、その時に彼らも人の主元神を済度するのです。このことは私により変えられ、改変されたのです。なぜならば人の主元神を済度することは、人類の社会道徳の安定に対して直接によい影響を与えるからです。副元神を済度すれば、本人は修煉できず、修煉にならないので、あなたが宗教に入ったとしても、社会はやはりこのままで、社会に対してたいした役割を果たせません。ですから人の主元神を済度すれば、彼は修めても、修めなくても、彼は社会で一人の良い人になるので、社会に対して有益なのです。精神病の患者について、彼自身の意識ははっきりしていないので、我々は彼を済度することができません。我々

は意識のはっきりしている者を済度するのです。はっきりしない者に私が何かを与えてあげても他人に取られてしまうのです。彼が練るか練らないか、それは我々の法に従うことができるかどうか、つまり別の法門のあれもこれも練ってはならないという不二法門を守れないからです。佛を修めることはとても厳粛なことです。彼が要求されたことを守れなければ、済度する方法はないのです。どうしても彼に学ばせようとする人がいますが、問題が現れたら、あなたがその責任を負わなければなりません。彼が練功しているうちに問題が起こったら、その時彼は法輪大法を練ったせいだと言うでしょう。精神病のある人には我々も絶対に教えません。これは原則です。彼は常人ですから、病気にかかり、問題が出てくるはず。彼が煉功場で練功しようとした時に何かの問題が起こるかも知れませんが、それは煉功することによって起こったのではなく、それは彼がその時になると発病するようになっていたからなのです。

**弟子：**全人類の人は皆同じですが、東方では佛教、西方ではキリスト教が普及していますが、地域の差異はとても大きいのです。佛教は西方での影響力がとても弱いのですが、異なる系統のせいなのでしょうか？

**師：**なぜ西方ではキリスト教で、東方では佛教なのでしょう？ 東方の宗教あるいは西方の宗教は、なぜ同じではなく、違いがとても大きいのでしょうか？ 実のところ、キリスト教も佛家体系の範疇内のもので、ただ人類の差異、文化上の差異と天体文化の差異で、人類の形象の違い、考え方の違いをもたらしたのです。つまり人の基準と特徴が違うので、佛を修める方法や、高次元の神に対する認識の概念や、理解の違いをもたらしたのです。本当は同じなのです。皆佛のこの境界のものなのです。イエスは本当のところ如来という次元なのです。しかし文化の違い、考え方の違い、形象上の差異のため、西方では佛と言わず、東方では佛と言うのです。もちろん、形象上の違い、形象上の差異のため、イエスの天国の人は、皆白い布を巻いた衣服を着ています。ところが佛の世界の人は皆黄色の布を巻いた衣服を着ています。髪型も違います。最も違うのは髪型です。道家は髻を結いますが、佛家の羅漢は坊主頭で、菩薩は中国古代の女性のような髪型です。なぜでしょうか？ 中国古代の衣装は天人の衣装と同じです。実際、天国つまり天上世界の人の身なりと同じです。ところが西方でもそうなのです。それは彼の天国世界の身なりなのです。人間はこういう状況です。もちろん現在のファッションは全て新しい様式になっていますが、実は今の人々が着ている衣服は最も格好が悪く、美しくないのです。

なぜ白人の世界に佛教がないのでしょうか？ なぜ東方人の世界にキリスト教がないのでしょうか？ 厳密に言えないのです。私の記憶では『聖書』あるいはこの類の本に、当初エホバとイエスが言った次のような話があります。お前達は東へ

行ってはいけない。話はまだ続きがありますが、私はこの一句だけを覚えています。お前達は東へ行ってはいけないというのは、彼の弟子に、東へキリスト教を伝えてはいけないと教えたのです。彼の弟子は彼の言うとおりにせず、遠征軍について東方に来ました。それによって一つの問題が起きました。つまり人種の問題です。世界の人種が混じり合うことは許されないのです。現在人種が混じり合ったために、非常に大きな問題がもたらされました。混じり合ってしまったら、天国の世界との対応関係がなくなり、彼は根元を失ったのです。混じり合ってしまったら人種は根元を失ったのです。つまり天国世界の中に彼を見守る人がいなくなり、どの世界にも属しておらず、どの世界も彼を引き受けなくなったのです。ですから、欧州とアジア大陸の連接地帯は昔砂漠で、無人地域でしたが、交通手段が発達していなかった頃、なかなか渡って来られませんでした。近代の交通手段の進歩につれ、この状況はすっかり変わったため、人種が益々混じり合うようになってきました。これは深刻な結果をもたらすのです。このような話はこの辺にしましょう。つまり天国世界はこのような人種を認めないのです。

私が先程言った問題は、人種は天国世界と対応関係があるということです。天国世界の白人は、この世界の中で、この宇宙の中で、この宇宙の少ない一部分、とても少ない一部分を占めています。それは即ち彼らの天国世界なのです。ところが、黄色人種と佛の世界、道の世界は非常に多く、ほとんど全宇宙に分布しています。如来佛はガンジス川の砂と同じように多く、非常に多く、非常に大きいのです。黄色人種の形象はこの宇宙の中に特に多くあります。ですから、天国世界とこの世の人種は対応しているのです。イエスが言ったお前達は東へ伝えてはいけないというのは、東方の人は我々の世界に属していないということを意味しています。イエスは東へ伝えてはいけないと教えたが、私もイエスの天国の中に東方の人がいないことに気づいたのです。なんと悲しいことでしょう！ 近代に至って、人は皆、主の話を聴かず、東方の人も佛の話を聴かないのです。ですから人はこれらの事を乱してしまっただけなのです。私はまた佛の世界に昔白人がいなかったことにも気づきましたが、しかしどうして現在この法を西方の人にも伝えるのでしょうか？ 私が伝えるものは宇宙の理、全宇宙の理であるからです。この大法の中で修煉している白人は、将来成就したら、彼の身体と彼の修煉形式は皆イエスの天国の人と同じです。彼が修煉して成就したら、そのようになるのです。ところが黄色人種が修煉し、成就したら佛の形象になるのです。ですから白人でも黄色人種でも私は全部済度することができるのです。伝えたこの法はすでにとっても大きく、私はさらにあなたに教えますが…、今までこんなに修煉の門を大きく開いたことはなかったのです。ただしこれにも訳があるのです。

**弟子：**先生がおっしゃった混血児のことはどういう事でしょうか？

**師:**先程私は混血児の事を話しましたが、これは天機を人類に伝えてしまったのです。我々がどうこうしようとする事ではありません。私は一つのさらに大きな事を行なったと言っています。混血児であっても私は濟度することができるのです。ただしこの時期だけ、私は混血児を濟度することができるのです。東方人と西洋人は皆地球にいますが、東方と西方は一つのものによって隔てられています。人間はこれを知らないのです。皆さんご存知のように、東方の人は「九」という数字の発音は縁起がよく、持久という意味につながっており、「八」という数字の発音は「発」と近似しており、「発財」（金持ちになる）ということに結び付けています。確かに少しだけは作用があるのです。東方で用いられている風水や、地理的環境を重んじるといったものを、西方で使っても効きません。効果はありません。白人には効果がありません。これに対して、白人が重視している星占いや何とか現象は、東方の人に効果がないのです。効果があると思う人がいますが、それはあなたが効果はあると思うだけで、実は効果はないのです。なぜかと言えば、白人の生物圏には、彼らの空間を構成している特殊な物質要素が存在しており、東方の人の生物圏にもその生命を構成した特殊な物質が存在しているからです。人の生命の構成はこれらのものに貫かれていますので、東方と西方は同じではないのです。混血して生まれた子供は、混血児になりますが、しかし、この子供の中に一つの隔りがあるのです。分けられてしまうと、彼は身体と理知が不健全になり、身体が健全でない人となってしまいます。現代の科学でも分かっているように、次の世代は前の世代よりだんだん劣ってしまいます。ですからこのような状態を引き起こすのです。もちろんこの人が修煉していれば、私はこの問題を片付けてあげて、対処できるのですが、修煉していない常人に対して勝手にやってはいけないのです。

**弟子:**私は煉功して衝をやる時に、掌が熱く感じます。私はどんな功法をしてもこのようなことがなかったのです。私は煉功している時、自分が菩薩であるようで、自分が一番えらいと思っていますが、これは正しいでしょうか？

**師:**煉功をする時、何の意念も加えないで下さい。密教は自分を佛であると思って修めています。彼はそもそも佛ではありません。彼の肉体は変わりましたか？ 変わっていません。修煉して、将来変わるの誰でしょうか？ 副元神です。私がこの法を伝えた時、すでに皆さんに教えました。私が濟度しているのは主元神です。もしあなたの副元神が修煉しても、あなたは相変わらず六道の中で輪廻し、それぞれの生命が分けられた時、あなたは何も知らないのです。掌が熱くなるのは正常なことです。

**弟子:**大法を修煉することには少しの意念も加えないのですか？

師：いかなる意念活動もなく、いかなる意念も全て執着なのです。

弟子：二つの質問ですが、一つは先生が先程言われた東方の人と西方の人の問題です。仮に以前多くの方は本来東方の人でしたが、西方の人に生まれ変わったら、どうすれば良いのでしょうか？

師：それは構わないのです。これは二つの状況があります。もしこの人が何かの目的を持って来たのでなければ、彼はその身体に従って変化します。我々は即ちこの人を変えさせるのです。もし目的があって来たのであれば、それはまた別の問題になります。それは別の状況です。

また皆さんに言っておきたいのですが、この法を広める時も、やり方に注意をはらわなければいけません。彼に興味を湧いて、学びに来たら、あなたも功德を積んでいることになります。これも無量の功德を積む事なのです。しかし一つだけ言いますが、人が学びたくないのに、どうしても人に学ぶようにと勧め、人を強引に学ばせるのであれば、それは良くないことです。本人に佛を修めたい気持がなければ、佛もどうにもできないのです。人は何を徳たいのか、何を求めるのか、その人自身で決めることです。善を勧め、善を勧め、その人に教えても良いのですが、強いて人を引っ張って来てはいけません。この点に関して皆さんに言っておきますが、我々はいかなる人にも無理に学ぶことを求めてはいけません。それに、将来煉功場の世話人、あるいは責任者は、大法の仕事をする時、職場のように上下関係の力で他人に要求してはいけません。みんな修煉している人なので、法をもって人を納得させるのです。みんな法を学んでおり、責任者のどこかによくないところがあり、どこが正しくなかったとか、学習者はそれを見たら、責任者の心性に問題があると指摘してあげます。ですから責任者が間違ったことを行なったら、皆さんはそれには従いません。なぜでしょうか？みんな法を学んでいるから、責任者の観念に従うのではなく、全て法の要求に従って行動しています。もちろん我々はあなたに対してもこのように対処しています。学びたければ学び、学びたくないならばあなたはやめてもいいのです。我々はいかなる人にも害を加えません。もう学びたくないと言ったら、学ばなくていいのです。学びたい、修めたいなら、我々はあなたに責任を負います。このことは保証できます。形式上は緩やかですが、佛を修めることは厳粛なことです。なぜならば我々はこんなに大きく厳粛な法に対してほんの少しでも間違いを起こしてはいけないからです。歴史上、人にこんなに大きな法を伝えたことはありませんが、皆さんは今ここに座っていて、当然のように思っていますが、人から話を聞いてここに来たと思うかもしれませんが、あなたに教えますが、あなたには縁があるかもしれず、いつとは知らずこの縁を造っ

たのです。縁もゆかりもなく来た者はとても少ないでしょう。皆さんが質問し続けても、聞くことはもうあまりないと思います。あなたの聞こうとすることは法から全部解答を得られます。

**弟子：**不二法門のことですが、法輪大法を学んでいる人で、他のもの、それに他の伝統的な占いのものを学んでいるかもしれませんか…。

**師：**佛を修めることはとても厳粛なことです。周易、八卦を研究してはいけないと言っているではありません。私が思うには、修煉の時間には限りがありますので、その時間があれば、法輪を研究し、明らかにすることができれば、大したものです。法輪より大きなものはないのです。現在の常人社会が知っている八卦の理と、多くの占いのものでも、銀河系を超えてはいません。ところが、この宇宙は大きくてあなたには分からないほど大きいのです。三千の我々のこの様な宇宙が、更に大きな宇宙を構成しています。三千の更に大きな範囲の宇宙が、更に更に大きな範囲の宇宙を構成しています、そこには数え切れないほど多くの神、佛がいます。その銀河系は何ほどのものですか？ とても小さいものです。大法を学ぶ人は、考えてみてください。こんなに大きな法をあなたに伝えましたから、修煉者ならそのようなものに精力をかける必要はないと私は思います。しかしもしそれがあなたの職業であれば、私は反対しません。それは常人の学問であり、学んでもよいのです。もしこれが自分の趣味だと言うならば、この心を切り捨てた方がよいと私は思います！ 私はあなたに責任を持たなければならないし、また佛を修めることは厳粛なことです。この法の研究に精力を用いたほうが一番よいのです。またあなたは限りなく受益できます。これは如何なる学問の研究とも比べものになりません。

常人の中で神や鬼を招くようなことに至っては、私に言わせればやるべきことではありません。それらの低い次元の霊は全て鬼だからです。あなたがそのようなものを求めているなら、それは我々のこの佛法とは天と地の差があります！ 更に、それは全部邪なもので、鬼なのです。また占いのことについて、私は本の中ですでに詳しくこの問題を説きました。修煉するのは、とても厳粛なことです。人にエネルギーがある時、その人が言い出した話は、その事を定めることまでできるのです。常人の事は不安定ですので、そうではないかもしれませんが、あなたがそのようになると占って、それを口に出すと、その通りになってしまったら、それは悪い事を行ったことになるのです。一人の修煉者に対して、もっと高い基準で要求しなければなりません。悪い事をしたら、それはもうただでは済みません。私は身体を浄化してあげますが、それはあなたが修煉したいという気持ちがあるのを見て、やってあげられることです。修

煉したければ、これらのものを放棄し、清らかに純粋な心で修煉するのが最も良いのです。

**弟子：**私は一つの悩みがあります。今日こんなに良い縁があつて、法輪大法を学ぶことができました。私は第二巻に書かれたことを読みましたが、現世で成就することができなかつたら、また来世に続けて修煉することを誓うことができます。私の真の目的は圓滿成就に達するまで修煉することです。しかし私は今もう年を取っていますが、どうしたらよいのでしょうか？

**師：**年寄りの人にはこのような問題が存在します。この功はとても速く修めることができますが、その人の残りの人生は修煉に間に合うのでしょうか？ 厳密に言えば、いかなる人に対しても間に合うのです。いくら年を取っていても同じです。しかし一つの問題があります。つまり一般の人は自分をしっかり制御できないことです。口先でできると言いますが、本当はやはりできないのです。あなたはそれほど高い境地まで修めておらず、心もそれほど高い基準に達していないので、しっかり制御できないのです。この功は性命双修の功法で、修煉しながらあなたの身体を変えて、あなたの命を延ばしてあげます。性命双修ですので、修煉しながら、命が延びていき、修煉しながら延びていきます。どんなに年を取った人でも理論上では、厳密に言えば間に合うのです。しかし一つの問題があります。延ばされた生命は百パーセント修煉に用いなければならないのです。常人の中で生きていくためではありません。彼は自分の生命が延ばされたことを知らず、しっかり制御できず、修煉者に対する要求に百パーセント従って行動することができなければ、彼はいつでもこの世を去る危険に直面しているのです。これが年配の人が直面している問題です。

しかし、もし本当に成就することができず、精進しなかった場合、その人には三つの進路しかありえません。一つは、つまり来世続けて修めることです。私の法身は、転生することまでも見てあげています。どの家に転生したら法を得られるか、これも安排してあげるのです。もう一つは、あなたがもう修煉などしたくない場合、人間はあまりにも苦しいので、修めて到達した境地に行きます。三界を出たら、三界以外のある境地で衆生になります。三界を出ていなければ三界にいて、その境地で天人になります。ただし三界内の場合、五百年か、三百年かはまちまちですが、やはりこの世に降りて輪廻しなければなりません。ただその境地で何百年かのよい生活を送ったに過ぎません。これが一つの問題です。またもう一つは、その人は確かに修めてよくできましたが、しかし、やはり基準に達することに至らなければ、法に対する理解や、あるいは大法に幾らか特殊な貢献をしたというような人は、法輪世界に行つて法輪世界の衆生になれます。三界以外ですので輪廻はしません。それはもちろん良いことで

すが、このような人は割合少なく、基準も厳しいのです。しかし彼は佛ではなく、羅漢でもなく、菩薩でもなく、彼は法輪世界の衆生であるだけです。ですからこのようなことです。実はもう法を得ましたから、佛を修める機縁はすでに結ばれました。

**弟子：**私は一つの質問があります。人の次元はどのように判断するのでしょうか？

**師：**私はこのように話していますが、上士、道を聞けば勤めて之を行う、と私は老子の言った話を引用しています。中士、道を聞けば、存るが若く、亡きが若し。下士、道を聞けば、大いに之を笑う。どういう意味でしょうか？ 上士、道を聞けばというのは、つまりこの人は修煉のことを聞くと、すぐ修行しようとしします。信じるのです。このような人はめったにいません。一気に最後まで修煉するのです。これは上士の場合です。上士、道を聞けば、勤めて之を行う。中士、道を聞けば、存るが若く、亡きが若し。どういう意味でしょうか？ つまり皆学びに来たのを見て、自分もついて学ぼう、いずれにしても良いことなのだからと思っています。しかし忙しくなると、あるいは常人の厄介な事に遭うと、忘れてしまい、どうせ他の人は学んでいないから、わたしもやめましょう。学んでもよいし、学ばなくてもよい、これは中士で、道を聞けば、存るが若く、亡きが若しということの意味です。修煉して成就できるかもしれませんし、成就できないかもしれません。成就できるかどうかは自分で決めることです。下士、道を聞けば、大いに之を笑う。この下士は道を聞くと、修煉するなんて、と大いに笑って、全て迷信だとして信じません。無論、彼は修煉することは更にできません。こういうことです。人がどこまで修煉できるかに至っては、それは自分の心がどれだけ耐えられるかによると私は思います。少しばかり厄介な事に遭って、ここを出ると、もう我慢できなくなりました。私はここで法を説いていますが、皆これが良いと思っています。正法の修煉ですので、持っているエネルギーは全て慈悲で和やかなもので、ここに座って皆気持ちが良いと感じ、私の話が聞きたくなります。将来皆さんの修煉もこのようになり、正法の修煉は皆同じです。しかしここを出た途端、もうあなたではなくなり、頭の中に常人が執着しているものが戻ってきて、しかもとても強烈で、修煉なんてとまた忘れてしまいます。これではいけないと思います。

**弟子：**もう少し混血児のことをお話ししていただけますか？

**師：**混血児について私はすでに話しました。私はただこの末法時期に出現した現象を言うだけです。もしあなたが混血児であれば、もちろんあなたやあなたの親のせいにしてはいけません。いずれにせよ人類が起こしたこのような乱れた現象で、このような状態が出現したのです。黄色人種と白色人種、それに黒色人種は、それぞれ天に対応する民族があります。ところで、その民族以外の人、その民族に属していない人

に対しては、確かに見守ってあげません。これは本当の事です。私はここで何かを言おうとしているのではなく、皆さんに教えたことはみな天機なのです。混血児は皆、末法時期に出現したもので、人を責めてはいけません。皆全て流れに身を任せていますので、誰も真相を知らないままに、このように生きてきたのです。あなたが修煉したければ、私には方法があります。どの天国に行くかに至っては、あなたの状況によって定めます。残ったものが多い部分を多く同化してあげます。何しろこういったことですから、あなたは修めることに専念すればいいのです。これらのことに気を取られないでください。法を得た以上まだ何か恐れるものがありますか。私はいままで法を説いた時にこのことを言わなかったのですが、しかしこの事は遅かれ早かれ人に教えることになるのです。

**弟子：**人類は全て素食を食べればそれはとても良いことではないでしょうか？

**師：**いいえ、それはあなたの一方向的な考えです。天は人のために生活の基準を規定しました。これで初めて人間になるのです。カロリーの補給は肉食が野菜を超えていることは間違いないのです。しかし修煉のこととなると、また別の事になります。

**弟子：**我々が座禅をする時、入静に関して具体的な基準はありますか？ 大法を修める人の主元神はいつも自分のことを考えていますので、修煉は入静に影響しませんか？

**師：**主元神とあなたの入静とは別の事です。最初の頃は入静するのは不可能です。なぜ人は静になれないのでしょうか？ 人の執着心があまりにも多いからです。あなたの商売や、勉強、仕事、人と人とのトラブル、子供が病気になるとか、親の面倒を見る人がいないとか、世間の事など、あなたの思いつかない事はありません。どれもあなたの頭の中で多くの比重を占めています。皆さん考えてみてください。これであなたは静になれると言えますか？ そこに座ると、何も考えないと言っても、それが自から湧いてきます。ですから何の方法を用いても静になれないのです。正に私が本の中で言ったように、あなたが口で佛号を念じたり、心を内視したり、数を数えたりすれば、静になれると言いますが、いずれも静になれません。それは一種の手段であって、それが必ずしも有効であるとは言えません。執着心、常人の中の執着心を段々と淡泊にするほかありません。淡泊になれば、自然に静になれる時、あなたはすでにかなり高い境地にいます。しかし、法輪大法を修煉したら和尚と同じようになって、何も要らず、物質上何もなくなってしまうのでしょうか？ そうではありません。我々は常人の状態に最大限に符合して修煉していきます。あなたは常人社会の中にいるのですから、あなたは特別になってはいけません。表面上あなたはとりも直さず一人の普通の人です。ですから常人に最大限符合しながら、修煉すべ

きです。結婚するのであれば、若者は結婚すべきですし、何かの商売をやるとか、官僚になるとか、これは全く影響がないのです。我々は一つの道理を説いていますが、人間は常人社会のどの階層にも軋轢があります。我々は宗教の枠を取り払います。道家は太極からでることができず、佛教もその理から離れません。ですから我々は宗教での考え方を放棄し、全宇宙の理を説いているのです。

あなたがどの階層の人であっても、どんな事をして、どんな職業の人であっても、修煉することができることに私は気づきました。なぜでしょうか？ 一人のごく普通の労働者は生活のために、彼の行動範囲で人と人との間、仕事の間でトラブルに遭遇するのです。これらのトラブルの間で、彼がどのように良い人間になるかの問題があります。なお一般のホワイトカラー労働者、つまり事務職員は、彼は自分の階層で、どうやって良い人になるのか、人と人との間にも相互の利益をめぐって争うことがあり、さまざまな方面において、彼はトラブルの中でどうやって良い人になるのかという問題もあります。ボスになる者は、彼はいかに自分の階層で商売をするのか、ボスとボスとの間、人と人との軋轢の間で、彼はどうやって良い人になるのか、彼にも彼のトラブルが存在するのです。大統領になる者も同じで、大統領として、国家のために心を労して、彼の思い通りにいくこともあれば、思いどおりにいかないこともあり、やり遂げることもあれば、やり遂げられないこともあり、国と国との間にも紛争があります。ですから彼にも悩みがあるのです。人が生きて以上こうなのです。ですから各境地の中で、あなたも浮世から離脱できず、人と離れられず、社会から離脱できません。ですからあなたにも必ずトラブルが存在します。あなたはこれらのトラブルの中で、どのように良い人になるのでしょうか。あなたが良い人になることができるなら、あなたはもう常人を超えています。

我々の説いたことはこの道理で、物質上何かを捨てることではなく、常人としての心を捨てるのです。商売を手広くやっても、あなたの修煉には影響しません。商売が成功したら、無論お金も多く稼げます。しかし、心の中ではお金を命ほど大切だとは思っていません。わずかばかりの利益にもこだわるようなこともありません。家が黄金で造られていても、心にもかけず、気にもしません。これは我々修煉者に求める基準です。あなたはいくら偉い官僚になっても人民のために良い事をする、これが我々の求めている修煉者の基準です。そうでしょうか？ 我々は宗教の枠を越えてこの事を説き、その本質を説いています。いかなる環境の中でも修煉ができます。ただ一つだけ言っておきますが、常人の中での修煉は、つまり直接人の心を錬磨します。ですから、なぜ私は本当にあなたを済度することを説くのでしょうか？ つまりあなたが真に自分で自分を高め、真にこの社会の圧力を受け、真に自分で自分を高めるので、この功はあなたに与えるべきで、我々はあなたを済度するのです。

副元神も功を得ることができますが、彼はいつになってもあなたの護法の役割を果たすだけです。彼も修めて成就してあなたについていくことができます。私がこの事を今日言い出しましたが、あなた達はまだそれほど高い認識を持っていないのです。私は皆さんに教えますが、一部の人はまだ他の修煉法の話をしています。この功はどうか、あの功はどうかなどと話し、まだ私が先程言ったこの話の意味を認識できていないのです！ 歴史上のいかなる修煉法もすべてあなたの副意識を済度するもので、あなたを済度しません。あなたを済度しないのです！ 私は一つの千古の謎を明らかにしました！ 私はとても大きな困難を乗り越えて始めて、この事を説き明かすことができましたのです。過去あなたはどのように修行してもあなたは済度されることはなく、あなたが修めたのは誰でしょうか？ あなたは一生修めても、やはり六道輪廻に入り、来世にあなたは何に転生するか分かりません。これはなんと哀れではありませんか！ なぜでしょうか？ 過去には宗教でも、他の修煉法でも、主元神を済度しません。彼らにとって主元神はあまりにも済度し難く、あまりにも頑迷だからです。私がこう言うと、皆さんは分かったと思うかもしれませんが、ここから離ればまた元の木阿弥になり、また常人の現実の利益の中に入り込んで、互いに争い合います。きっとそうになってしまいます。ですから神は人をあまりにも済度し難いとみています。しかし私が済度するのはあなたです。あなたの副元神もあなたと同じ名前で、同時に母胎から生まれたもので、共にこの身体を主宰しています。ただあなたはその存在を知らないだけです。他の功法が済度するのは副元神で、あなたに話をしているようですが、実際は副元神に対して話をしています。あなたは時に無意識のうちに何らかの話をしましたが、それはあなたの脳が言っているものではありません。多くの人は座禅すると何も分からなくなり、何時間も座禅を続けます。彼は出定した時とても喜んで、私は本当によくできて、座禅を何時間も続け、入定できたと言います。これは大変悲しむべきことなのです！ あなたが煉功したのでしょうか？ あなたは知っていますか？ 全く他人が修煉したのです。

これまで一部の道家は主元神を麻痺させて、副元神に修煉させるために、酒を飲ませていました。道家では酒を飲むものが多く、自分を麻痺させ、何も分からないほど飲んで寝てしまい、副元神が連れて行かれて煉功させられます。簡単に言っているようですが、私が言ったことは千古の謎です。この方法にしても、あの方法にしても同じであり、彼らは人が成就できるまで修煉できないと思っています。彼は好意かもしれませんが、あなたの身体から一人の副元神が成就できたので、あなたも徳を積むことになり、苦しみに耐え、あなたの青春はすべて宗教に費やしたのです。ではどうなるのでしょうか？ 来世にあなたを、一人の副元神に転生させることになるかもしれません。これはめったにないことだと思います。それからまたあなたを修煉させるの

ですが、これもきわめて少ないことです。しかし福報を受ける人がいます。どのように福報を受けるのでしょうか？ 高官になり、大金持ちになり、あるいは大実業家になり、来世はこのようになります。なぜならば彼は一生をかけて徳を積み、福を積んだのです。在席の皆さんは誰でもこうなりたくないと思っていると私は思います。私がこの事を言ってから、誰かがまた私に、この功はどうか、あの功はどうか、あの宗教はどうか、この宗教はどうかというようなことを話したら、その人の悟性があまりにも低いと私は思うのです。皆さんは法輪大法の特色を読めば、そこに全て書かれています。人々は皆気づかず、それを普通の話として見過ごしています。それは宇宙の規則で、過去はその通りだったのです。

あなたはこの会場から出たら、身体がとても快適だと思えるかもしれませんが、しかし、あなたが修煉していくうちに、また身体が辛くなることがあります。なぜでしょうか？ あなたの生々世々に業力があるからです。一生一世のものは一気に押し出すことはできず、一気に押し出したら、人はすぐ死んでしまいます。ですからこの業力を我々は徐々に身体の中から外へ押し出します。この業力を少しずつ身体の外へ押し出しています。するとしばらく時間が経つと、また身体が辛くなります。これは病気ではないかと思うかもしれませんが、皆さんに教えますが、それは病気ではありません。しかし身体がとても辛く、時に重病のような症状が現れてきます。しかし分かっている人は辛くなると、うれしくなります。先生が私を見守って、病気を取り除き、私の業を消してくださるのだと言います。一部の人は身体に辛い感覚がなければ却って焦り、先生は私を見守ってくださらないのでしょうか、どうして業を消す感覚がないのでしょうかと心配します。しかし、一部の新しい学習者は身体に辛さを感じるとこれを病気だと思って薬を飲み、薬を飲みながら煉功すればもっとよいと思ってしまいます。我々はその一つの道理が見えています。つまり病院は業を消すことができず、医者は修煉者ではないので、そんな威徳はありません。ただ常人の中の技術者です。医者はあなたの表面上の苦痛を取り除くだけで、病気は深いところにそのまま留まっているのです。薬を飲むことは病気を身体の中に押し込むことで、それは積み重なっていきます。表面上苦痛はなくなりますが、身体の深いところに更に積み重なっていくのです。手術をするのも同じことです。例えば腫瘍ができたので切除すると、これは表面の物質を切り取っただけでその病気を生み出す本当の原因は他の空間にあり、それは動かされていません。ですから業力が重い場合、病気がまた再発します。治ったように見えても、今生の間は再発しなくても来世でまた再発します。というのはそれが深層に押し込まれただけで、いずれはまた現れてくるのです。自分の業力を全て償わなければなりません。こういった道理なのです。私達がここでやっていることはあなたの生命の本源からあなたの汚いものを全て押し出しているのです。しかし誰もこんなことはやっていません。修煉だけがこのことを可能にするのです。私達があなた

にこのことをやってあげるのです。しかしこのためには皆さんが心性を制御する必要があり、身体の具合が悪くなると、また病気になったと思っではいけません。あなたが病気になったと思えば薬を飲むなら、私達は何も言いません。修煉は悟性によるもので、いろいろな取り決めがあるわけではないのです。私達は身体の具合が悪い時に薬を飲んではいけないと言っているのではありません。そうではないのです。

一部の人は自分を修煉者として律しておらず、ただ煉功するだけで、法を学ばずどんなことでもやってしまいます。煉功しても、私の法身はその人の面倒をみません。そうすればその人はただの常人ですから、病気になることもあります。もし我々が薬を飲んではいけないと規定したら、あなたが修煉者としての基準によって自らを律することができなければあなたはまだ常人です。病気になった時、あなたは李洪志が私に薬を飲ませないからと言うかもしれませんが。ですから私は薬を飲むか飲まないかのことを言いません。自分で判断してください。本来それはあなたに対する試練なのですが、自らを修煉者とすることができないのならば、あなたは病気にかかることもあるでしょう。これが道理なのです。我々はただその理を言っているだけです。ですから皆さんに教えますが、今後あなたが修煉する場合、身体の具合が悪くなることは前世の業力を押し出しているのかもしれませんが。私が見たところでは、一部の人は何十世も転生し、更に百世も転生した人がおり、毎世に多くの病気を抱えていますので、全て浄化してあげなければいけません。いずれも全部浄化してあげなければなりません。他の空間から取り除くものは更に多く、必ず一部を除かなければならないのです。しかし、すべて他の空間から取り除くことはできません。なぜならば、あなたに少し苦を嘗めさせなければならぬからです。苦を嘗めなければ、悪事をしても償わないのと同じです。そうすると、あなたが成就したその日にあなたを佛の位置に置いても、ここにいる資格はないと感じるでしょう。他の生命もあなたがどうやって上がって来たのかと思うでしょう。そうではありませんか？　ですからあなたは一部の苦痛に耐えなければなりません。そして苦に耐えていると同時に、あなたの悟性を高めることができます。あなたはそれを病気とするのか、それとも修煉者の消業とみなすのでしょうか？